

子供の事故防止対策について

- 報告書 -

平成 1 8 年 3 月

子供の事故防止対策検討委員会

はじめに

私たちは今、めまぐるしく変わる社会の中にあります。経済や技術の発展等により生活の快適性、利便性などが進んだ反面、これまでにない危険が生じ、新しいタイプの不慮の事故がみられるようになってきています。

子供を取り巻く生活環境も例外ではありません。生活様式、子供の育て方・育てられ方、生活経験に至るまで大きく変わってきています。しかも、建築物に設置された自動回転ドアの事故をはじめ、遊具による事故等にみられるように、これまで予想もしなかった痛ましい事故が相次いで発生し、子供の安全が脅かされています。このような子供の事故について、少子化などを背景に社会的な関心も高まり、日常生活における子供の安全確保及び事故防止対策が急務となっております。

これまで我が国は、諸外国と比べて犯罪の少ない安全な国といわれてきました。また、事故防止に対する関心は、比較的高いレベルにあるといえます。しかし、建築、教育・保育等の関係者をはじめ、一般都民に対する事故情報や安全対策情報が十分に提供されているとはいえない状況となっています。さらに、子供に対する安全教育や保護者等に対する指導内容、普及啓発方法など、子供の安全確保を推進していくためには、まだまだ多くの課題があると考えられます。

このことから、各分野の専門家からなる本委員会により、子供に係る事故について、救急事故等の情報の収集と分析、防止対策等の検討を行い、ここに報告書を取りまとめました。

本調査の実施にあたり、熱心に活発なご意見を出し、ご検討くださいました委員各位、各調査にご協力くださいました皆様と東京消防庁指導広報部のご協力に深く感謝申し上げますとともに、本報告書が子供の安全確保及び事故防止に活用され、子供に係る事故が軽減されることを切に願っております。

平成18年3月

子供の事故防止対策検討委員会委員長
玉川大学教育学部教授 荻須 隆雄

目 次

はじめに

第 1 章	委員会等	1
第 1 節	目的	1
第 2 節	設置要綱	1
第 3 節	委員等名簿	2
第 4 節	検討経過	3
第 5 節	用語	5
第 2 章	各調査の概要	7
第 1 節	救急事故の事例調査	7
第 2 節	実態調査	8
第 3 節	保護者等の意識調査	9
第 3 章	救急事故の事例調査	11
第 1 節	事故種別からみた事故の傾向	11
第 2 節	事故種別と発生場所からみた事故の傾向	13
第 3 節	事故種別と関連器物からみた事故の傾向	15
第 4 節	事故種別と受傷形態及び発生場所からみた事故の傾向	19
第 5 節	事故種別と初診時程度からみた事故の傾向	21
第 6 節	関連器物と受傷形態及び初診時程度からみた事故の傾向	26
第 7 節	事故の要因	34
第 8 節	事故事例	46
第 4 章	実態調査	55
第 1 節	年代別利用状況	55
第 2 節	利用時の子供の行動	56
第 3 節	保護者の動向	63
第 4 節	遊具設置面の状況	65
第 5 章	保護者等の意識調査	67
第 1 節	保護者の意識調査結果の基本データ	67
第 2 節	小学校教員の意識調査結果の基本データ	79

目 次

第 3	小学生が遭遇した事故についてのアンケート調査結果の基本データ	85
第 6 章	文献調査	91
第 1	児童発達学に関すること	91
第 2	遊び場、施設等における安全対策に関すること	99
第 3	過去における調査研究報告書等に関すること	107
第 7 章	総合的分析及び課題	119
第 1	子供の事故に係る各調査からの分析	119
第 2	総合的分析	121
第 3	課題	122
第 8 章	対策	123
第 1	保護者の対策	123
第 2	保育施設及び教育機関等の対策	123
第 3	公園等の管理者及び遊具に係る業界団体の対策	124
第 4	東京消防庁の対応	124
資料 1	子供の身近な危険調査	125
第 1	身近な危険（異物・誤飲）について	125
第 2	身近な危険（お風呂）について	127
資料 2	各調査様式	129

第1章 委員会等

第1 目的

都民生活において生ずる事故のうち、建築物に設置された自動回転ドアの事故をはじめ、遊具による事故等に見られるように、これまでに予想もしなかった事故が相次いで発生し、子供の安全を脅かしている。また、子供の事故に関する総合的な分析が少ないことや少子化などを背景に子供の不慮の事故に対する社会の関心も高まっており、子供の安全確保及び事故防止対策が急務となっている。

このことから、子供が日常生活において遭遇する事故についての情報を収集し、事故を予防するための知識の普及及び意識の啓発を図り、並びに安全対策の向上を目的として設置されたものである。

第2 設置要綱

子供の事故防止対策検討委員会設置要綱

第1 目的

子供に係る救急事故において、人的要因、機械的要因、管理的要因等について分析するとともに、その事故防止対策について検討を行い、同種の事故の減少を図るため、子供の事故防止対策検討委員会（以下「委員会」という。）を設置し、都民生活の安全に寄与することを目的とする。

第2 検討事項

- 1 子供に係る危険の把握（救急事故に関係のある物についての利用面、構造面及び維持管理面）について
- 2 子供に対する安全教育について
- 3 子供に対する保護者の監視等について
- 4 子供に対する保護者の安全意識の向上について
- 5 その他子供の事故防止に関して必要な事項

第3 組織

- 1 委員会は、庁外の有識者10名以内及び庁内関係者5名以内で組織する。
- 2 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。
- 3 委員長は、委員会を主宰し、会務を統括する。
- 4 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。
- 5 委員長が必要と認めるときは、委員以外の有識者等の出席を求めることができる。

第4 委員会の開催

委員会は、委員長が必要と認める都度開催する。

第5 委嘱等

- 1 庁外委員は、専門的な知識、技術及び経験を有している者の中から、消防総監が選任し委嘱する。
なお、委員長及び副委員長は、庁外委員の中から消防総監が委嘱する。
- 2 経費は、部外講師に対する謝金の支払基準（東京都職員研修所）に準ずる。また、支払いは開催月の翌月1日から10日までに行う。

第6 事務局

委員会の事務を処理するため、事務局を東京消防庁指導広報部生活安全課に置く。

第7 設置期間

平成17年7月21日（木）から平成18年3月31日（金）までとする。

第8 その他

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年7月21日から施行する。

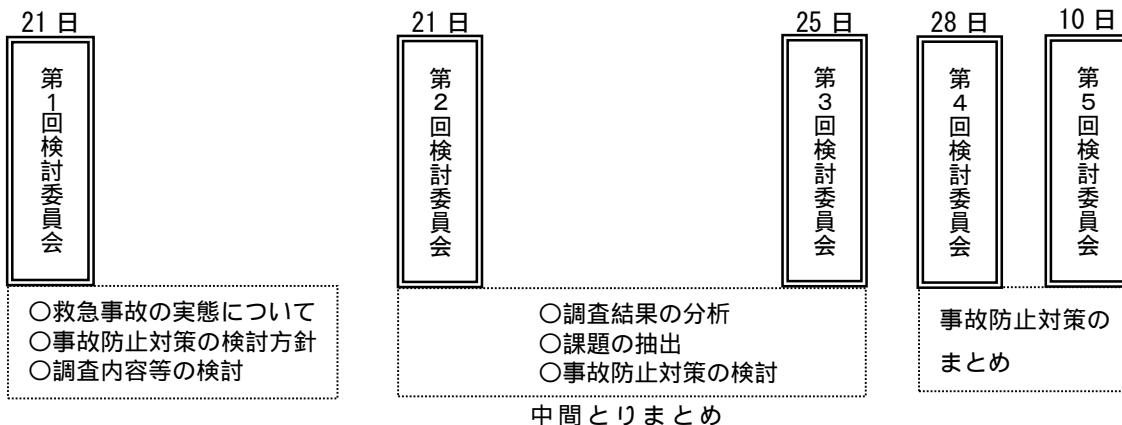
第3 委員等名簿

	氏 名	就 任 時 の 役 職 等	期 間 等
○ 庁 外 委 員 (敬称略)	おぎ す たか お 荻 須 隆 雄	玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授	H17.7.21 ~ H18.3.31
	や とう ご たけし 八 藤 後 猛	日本大学理工学部建築学科専任講師	H17.7.21 ~ H18.3.31
	さ とう いわ お 佐 藤 岩 雄	東京都生活文化局消費生活部生活安全課長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	さめ しま あき よし 鮫 島 明 良	社団法人東京都小学校 P T A 協議会会長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	たか はし や え 高 橋 八 映	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 練馬二葉保育園園長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	なが しま かつ し 永 島 勝 治	社団法人 日本公園施設業協会副会長 大永ドリーム株式会社代表取締役会長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	や ぎま よし あき 矢 崎 良 明	東京都公立小学校長会 世田谷区立千歳台小学校校長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	よこ や ま り 横 矢 真 理	特定非営利活動法人子どもの危険回避研究所所長	H17.7.21 ~ H18.3.31
庁 内 委 員	あさ の ゆき お 浅 野 幸 雄	東京消防庁指導広報部長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	あら い のぶ ゆき 荒 井 伸 幸	東京消防庁参事兼救急管理課長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	いし い よし あき 石 井 義 明	東京消防庁参事兼広報課長	H17.7.21 ~ H18.3.31
	た なか みち たか 田 中 道 高	東京消防庁指導広報部生活安全課長	H17.7.21 ~ H18.3.31

は委員長、○は副委員長を示す。委員長、副委員長を除き庁内、庁外委員とも氏名順。

第4 検討経過

平成17年						平成18年		
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



<救急事故の事例調査>
救急事故の事例調査(10,090人)
平成17年4月1日～平成17年11月30日の救急事故について調査

<保護者等の意識調査>
救急事故に至らない事案や、ヒヤリ・ハット事案、保護者等の意識
保護者(有効回答 663人)
保護者に対するアンケート
小学校教員(有効回答 38人)
小学校教員に対するアンケート
小学生(有効回答 466人)
小学生(3～6年生)に対するアンケート

<実態調査>
公園における遊具の利用状況の観察(421人について観察)
推定年代別に利用者をカウント
子供の行動、保護者の有無等の記録

<文献等調査>
児童発達学に関すること
遊び場、施設等における安全対策に関すること
過去における調査研究報告書等に関すること

※委員会開催場所：東京消防庁本部庁舎会議室

検 討 フ ロ ー

検討テーマ
子供に係る事故防止対策について

検 討 事 項

- 1 子供に係る危険の把握（救急事故に関係のある物についての利用面、構造面及び維持管理面）について
- 2 子供に対する安全教育について
- 3 子供に対する保護者の監視等について
- 4 子供に対する保護者の安全意識の向上について
- 5 その他子供の事故防止に関して必要な事項

調 査 項 目

- 1 救急事故の事例調査
- 2 実態調査
- 3 保護者等の意識調査
- 4 文献調査

調査結果について

- 1 調査結果の分析
- 2 課題の抽出
- 3 事故防止対策の検討

検討結果の方向性

- 1 保護者等への注意喚起及び意識の啓発
- 2 子供に対する保護者及び学校からの安全教育
- 3 保護者等への応急手当ての普及
- 4 器具等の管理・点検の徹底、設計・構造・環境の見直し

第5 用語

本委員会及び本報告書で使用した用語は以下のとおりである。

1 救急事故

消防法等に基づき、東京消防庁が行う救急業務の対象となる事故等をいう。

2 東京消防庁管轄区域

稲城市、東久留米市、島しょを除いた東京都全区域をいう。

3 救急事故等の種別

区分	種別	摘要
不慮の事故	交通事故	すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは交通機関が歩行者等と接触したことなどによる事故をいう
	火災事故	火災現場において直接火災に起因して生じた事故をいう
	運動による事故	運動競技の実施中に発生した事故で直接運動競技を実施している者、審判員及び関係者等の事故（ただし、観覧中の者が直接に運動競技用具等によって負傷した者は含み、競技場内の混乱による事故等は含まない。）をいう
	自然災害事故	暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべり、その他異常な自然現象に起因する災害による事故をいう
	水による事故	水泳中の溺者又は水中転落等による事故をいう
	労働災害事故	各種工場、事業所、作業所、工事現場等において就業中発生した事故をいう
	一般負傷	他に分類されない不慮の事故をいう
故意の事故	自損行為	故意に自分自身に傷害等を加えた事故をいう
	加害	故意に他人によって傷害等を加えられた事故をいう
疾病	急病	疾病によるものをいう
その他	転院搬送	
	医師搬送	
	資器材等輸送	
	その他	

4 都民生活事故分析管理システム

都民生活において生ずる事故を予防するため、救急事故の中から一般負傷を中心に事故の発生状況などに関する情報を蓄積管理し、放置した場合に事故が繰り返されると予測される事故及び事故の発生危険が潜在していると考えられる事案を効率的に抽出することを目的としたシステムをいう。

5 受傷形態

受傷形態大区分	受傷形態（主なもの）
創 傷	転倒、衝突、引きずられ、飛来物・落下物、挟まれ等によるもの
転 落	高低差のある場所から地表面又は静止位置までスロープ等に接触しながら転がり落ち、受傷したもの
墜 落	高所から地表面又は静止位置まで落下し、受傷したもの
熱 傷	高熱固体、高熱液体、蒸気、腐蝕物・化学物質等により熱傷を受けたもの
窒 息	河川等での溺水、家庭内での溺水（風呂等）、家庭内での窒息（寝具等）によるもの
異物・誤飲	誤嚥（目、耳、鼻、その他の孔口の異物を含む）によるもの
ガス中毒	ガス、不完全燃焼ガス、煙、酸素欠乏等によるもの
薬物中毒	医薬品、洗浄・消毒剤、有機溶剤、殺虫剤・農薬等によるもの
その他	過度の高温（日射病等）、過度の低温（凍傷等）、ショック等によるもの

6 初診時程度

傷病者を医療機関に搬送した際、医師により以下の基準に基づき判断された傷病の程度をいう。

- (1) 死 亡：初診時死亡が確認されたもの
- (2) 重 篤：生命の危険が切迫しているもの
- (3) 重 症：生命の危険が強いと認められたもの
- (4) 中等症：生命の危険はないが入院を要するもの
- (5) 軽 症：軽易で入院を要しないもの

7 子供

12歳以下をいう。

8 関連器物

受傷原因に直接または間接的に影響があった器物のことをいう。「器物」とは、機械器具や用具、薬品、食品、生物などが含まれる。

第2章 各調査の概要

第1 救急事故の事例調査

1 調査の趣旨

実際に発生した子供に係る救急事故に関し、救急活動から得られた事故状況等の情報から、事故に至った要因などを把握するものである。

2 調査方法等

(1) 対象とする事故種別

都民生活事故分析管理システムの対象となる運動による事故、自然災害事故、水による事故、労働災害事故、一般負傷のうち、一般負傷、運動による事故、水による事故とする。

(2) 調査方法

平成17年4月1日から平成17年11月30日までに、東京消防庁管轄区域内で発生した「対象とする事故種別（全年代68,038人）」の救急事故のうち、子供に係るもの10,090人について、事例調査を実施した。

(3) 調査項目

1 把握事項

(1) 覚知日時

(2) 性別

(3) 年齢

(4) 発生場所

(5) 受傷部位…全身、上半身、下半身、頭部、顔部、頸部、胸部、腹部、背部、肩部、上腕部、前腕部、手部、腰部、臀部、股間部、大腿部、股関節部、下腿部、足部、気道、不明

(6) 初診時程度…死亡、重篤、重症、中等症、軽症、拒否等、不明

(7) 受傷形態

(8) 関連器物

2 受傷概要

第2 実態調査

1 調査の趣旨

救急事故の事例調査では、一般負傷の発生場所が住宅に次いで公園・広場等において多いことから、公園における子供及び保護者等の行動を観察することで、救急事故の事例調査ではわからない遊具の利用方法、遊びの状況等について把握することを目的に実施するものである。

2 調査方法等

遊具のうち、事故の発生割合の高いすべり台、ぶらんこ、雲梯、ジャングルジムの4種に特定し、それらの遊具の周辺に調査員を配置し、利用状況の観察を目視により実施した。

3 調査項目

目視による観察で、以下の項目を収集した。

- ① 性別
- ② 年齢（推定）
- ③ 行動面（「上に立つ」、「飛び降りる」、「両手を離す」、「複数で遊ぶ」などの状況）
- ④ 保護者の有無
- ⑤ 保護者の動向（「手が届く位置」、「目が届く位置」、「声が届く位置」などの見守り方）

※ 使用した実態調査票については、資料2各調査様式のとおり。

4 調査場所及び日時等

調査場所	月 日	調 査 時 間
公園1	平成17年12月5日(月)	10時00分～12時00分
		13時00分～16時00分
公園2	平成17年12月6日(火)	10時00分～12時00分
		13時00分～16時00分
公園3	平成17年12月7日(水)	10時00分～12時00分
		13時00分～16時00分

第3 保護者等の意識調査

1 調査の趣旨

日常生活における子供の事故の実態及び救急事故に至らないヒヤリ・ハット事案や保護者等の意識及び行動把握を目的に実施したものである。

2 調査対象及び方法

調査対象	調査方法
保護者	アンケート用紙への記入及びインターネットモニター
小学校教員	アンケート用紙への記入
小学生（3年生から6年生）	アンケート用紙への記入

3 調査項目

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 性別・年齢・学年 ② 事故が起きた場所又は事故にあいそうになった場所について ③ 事故の要因となった子供の行動について ④ 事故が起きた時の保護者等の行動について ⑤ 受傷形態について ⑥ 関連器物について ⑦ 受傷部位について ⑧ ケガの程度について ⑨ 保護者の子供の事故防止に対する気配り等について ⑩ 事故の責任の所在について ⑪ その他、子供の事故防止に関して気づいたことについて |
|---|

※ 使用したアンケート用紙については、資料2各調査様式のとおり。

4 調査実施期間

平成17年10月1日から11月30日まで

5 有効回答数と回答者の属性

(1) 有効回答件数 1,167人

保護者	663人
小学校教員	38人
小学生	466人

(2) 年代等の内訳

ア 保護者

年代	20代	30代	40代	50代	その他	不明
人数	29人	313人	295人	11人	6人	9人

イ 小学校教員

担任する学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
人数	7人	6人	4人	8人	5人	8人

ウ 小学生

学年	3年	4年	5年	6年
人数	117人	129人	108人	112人

第3章 救急事故の事例調査

第1 事故種別からみた事故の傾向

子供の事故10,090人は、全年齢における事故総数68,038人の14.8%を占めている。0～5歳は6,941人(10.2%)で6～12歳の3,149人(4.6%)より5.6ポイント高い。

1 一般負傷

- (1) 0～12歳の事故は9,682人で、子供の事故全体の96.0%を占めている。
- (2) 0～5歳の事故は6,900人で、一般負傷の71.3%になる。6～12歳の事故は2,782人で、28.7%である。

2 運動による事故

- (1) 0～12歳の事故は369人で、子供の事故全体の3.7%にあたる。
- (2) 0～5歳の事故は9人で、運動による事故(369人)全体の2.4%である。6～12歳の事故は360人と、運動による事故全体の97.6%を占めている。

3 水による事故

- (1) 0～12歳の事故は39人で、子供の事故全体の0.4%である。
- (2) 0～5歳の事故は32人で、水による事故(39人)全体の82.1%を占めている。

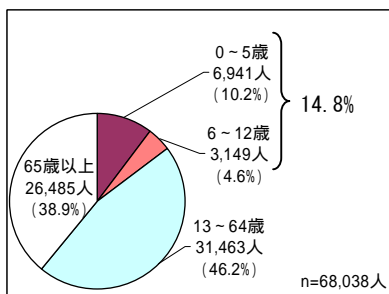


表3-1 事故種別×年齢【2005.4.1～11.30 (10,090人)】

	一般負傷	運動による事故	水による事故	合計	年齢別割合
0～5歳	6,900 (71.3%)	9 (2.4%)	32 (82.1%)	6,941 (68.8%)	10.2%
事故種別割合(%)	99.4%	0.1%	0.5%	100.0%	
6～12歳	2,782 (28.7%)	360 (97.6%)	7 (17.9%)	3,149 (31.2%)	4.6%
事故種別割合(%)	88.3%	11.4%	0.2%	100.0%	
0～12歳	9,682 (100.0%)	369 (100.0%)	39 (100.0%)	10,090 (100.0%)	14.8%
事故種別割合(%)	96.0%	3.7%	0.4%	100.0%	
13～64歳	27,457	3,949	57	31,463	46.2%
事故種別割合(%)	87.3%	12.6%	0.2%	100.0%	
65歳以上	26,331	64	90	26,485	38.9%
事故種別割合(%)	99.4%	0.2%	0.3%	100.0%	
合計	63,470 (100.0%)	4,382 (100.0%)	186 (100.0%)	68,038 (100.0%)	100.0%
事故種別割合(%)	93.3%	6.4%	0.3%	100.0%	

図3-1 年齢別事故人数

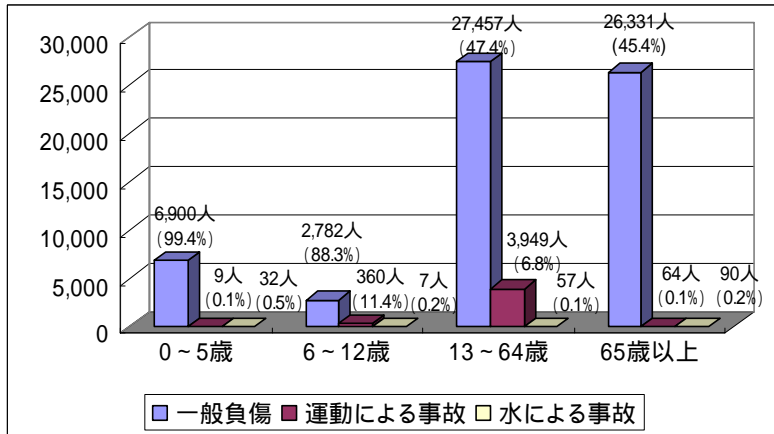


図 3-2 事故種別・年齢別事故人数

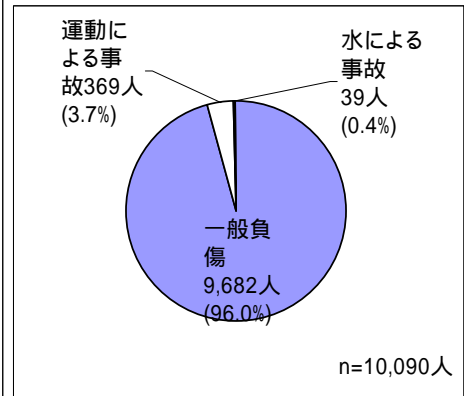


図 3-3 事故種別割合

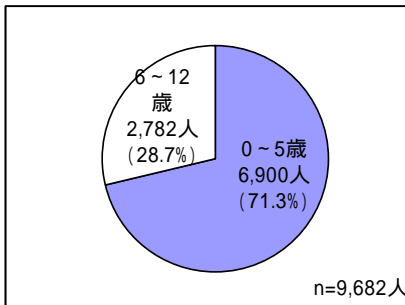


図 3-4 年齢別事故人数 (一般負傷)

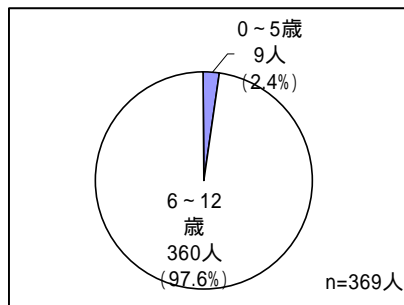


図 3-5 年齢別事故人数 (運動による事故)

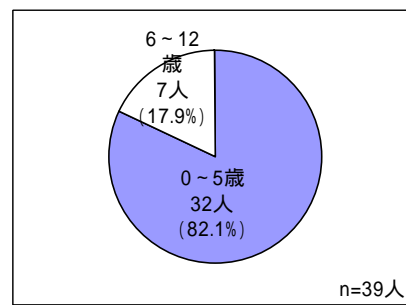


図 3-6 年齢別事故人数 (水による事故)

4 人口10万人あたりの年間事故人数

東京都の人口を基に、人口10万人あたりの年間事故人数を算出すると、0～5歳は、65歳以上の高齢者の値に近く、事故発生率は高いといえる。また、0～5歳の年間事故人数は、6～12歳の2.5倍である。

東京都の人口は、平成17年1月1日現在の住民基本台帳による推計値（東京都総務局統計部公表）を使用した。

以下、事故種別からみた事故の傾向をみる。

表 3-2 人口10万人あたりの年間事故人数

年齢	受傷者数(救護人員)	東京都の人口 (平成17年1月1日推定値)	人口10万人当りの 年間事故人数
	A	B	C
0-5歳	6,941	590,059	1,764.5
6-12歳	3,149	669,474	705.6
13-64歳	31,463	8,725,326	540.9
65歳以上	26,485	2,176,162	1,825.6

※受傷者数は、平成17年4月1日から平成17年11月30日までの合計であり、月数では8ヶ月である。

※人口10万人あたりの年間事故発生人数の計算式は、 $C = A \div B \times 12 \div 8 \times 100,000$ とした。

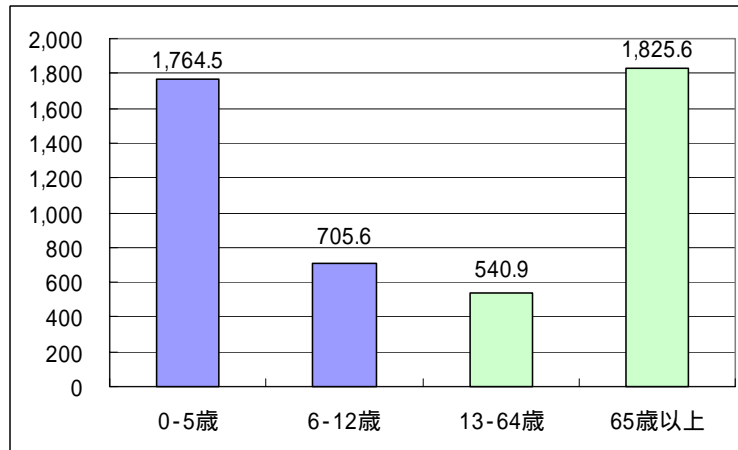


図3-7 人口10万人あたりの年間事故人数

第2 事故種別と発生場所からみた事故の傾向

1 一般負傷（0～5歳：6,900人、6～12歳：2,782人）

(1) 0～5歳の一般負傷6,900人のうち共同住宅、一般住宅を合わせると4,696人(68.1%)となる。

(2) 6～12歳は公園・広場等、小学校、一般道路、運動場等で1,415人(50.9%)、共同住宅、一般住宅で884人(31.8%)となる。

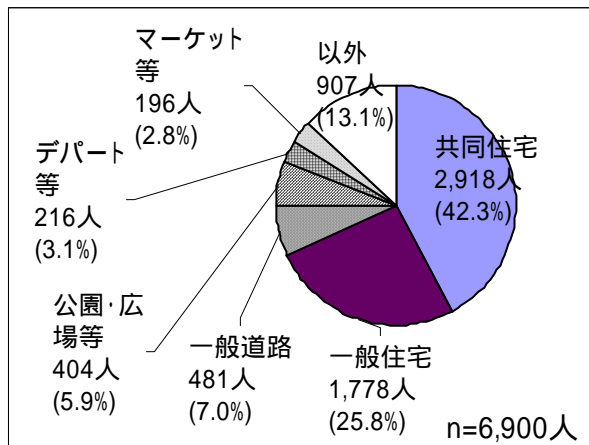


図3-8 発生場所別割合（一般負傷0～5歳）

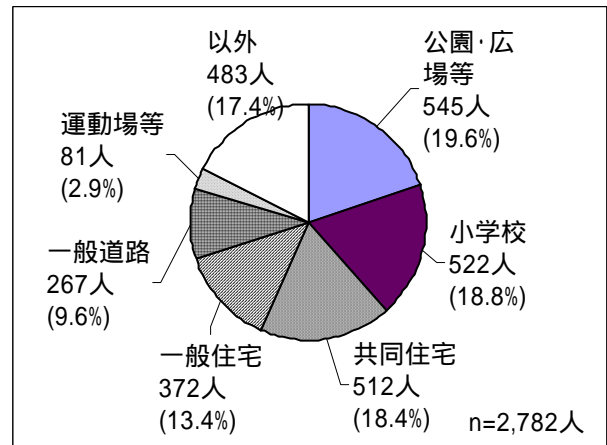


図3-9 発生場所別割合（一般負傷6～12歳）

2 運動による事故（0～5歳：9人、6～12歳：360人）

6～12歳では小学校、運動場等、公園・広場等での事故が336人(93.3%)を占めた。

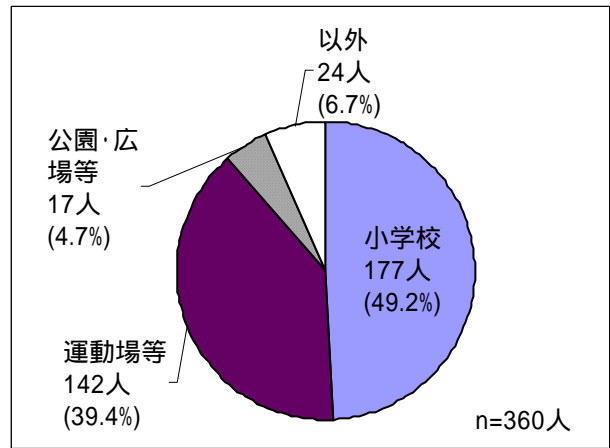
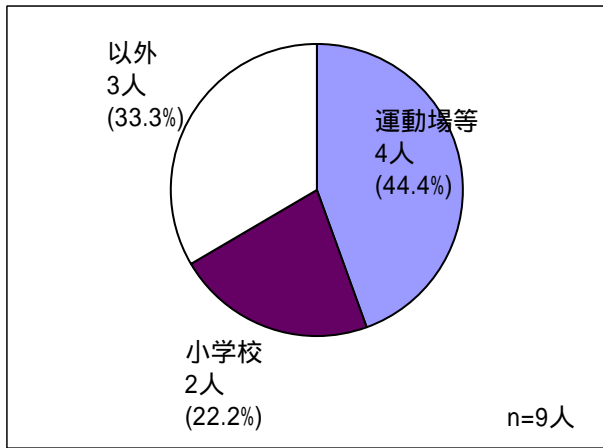


図 3-10 発生場所別割合 (運動による事故 0~5 歳) 図 3-11 発生場所別割合 (運動による事故 6~12 歳)

3 水による事故 (0~5 歳 : 32 人、6~12 歳 : 7 人)

0~5 歳では一般住宅、共同住宅での事故が 28 人 (87.5%) を占めた。

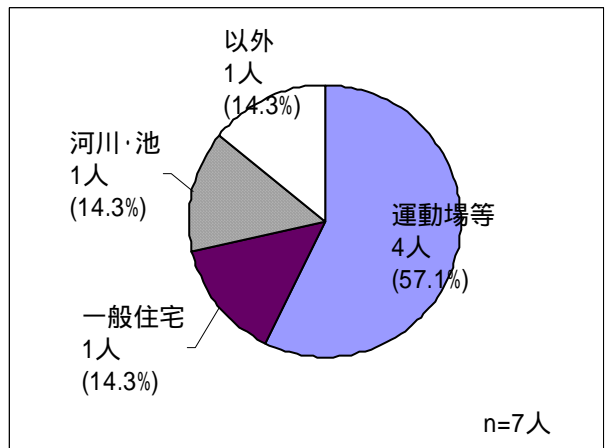
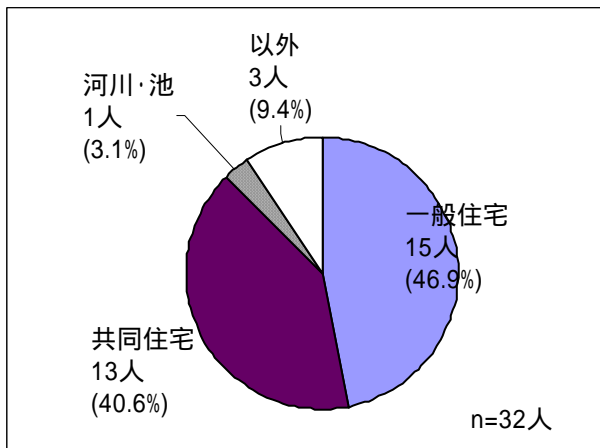


図 3-12 発生場所別割合 (水による事故 0~5 歳) 図 3-13 発生場所別割合 (水による事故 6~12 歳)

表3-3 事故種別×発生場所別 (0~12歳 10,090人)

一般負傷 (9,682人) ※ 上位20			運動による事故 (369人)		
1	共同住宅	3,430 35.4%	1	小学校	179 48.5%
2	一般住宅	2,150 22.2%	2	運動場等	146 39.6%
3	公園・広場等	949 9.8%	3	公園・広場等	17 4.6%
4	一般道路	748 7.7%	4	共同住宅	7 1.9%
5	小学校	561 5.8%	5	一般住宅	6 1.6%
6	デパート等	247 2.6%	水による事故 (39人)		
7	マーケット等	233 2.4%	1	一般住宅	16 41.0%
8	駅	215 2.2%	2	共同住宅	13 33.3%
9	待合・料理店等	154 1.6%	3	運動場等	4 10.3%
10	幼稚園・保育園	142 1.5%	3	河川・池	2 5.1%
11	運動場等	134 1.4%	3	各種学校	1 2.6%
12	その他公衆出入	120 1.2%	3	旅館・ホテル等	1 2.6%
13	駐車場・車庫等	99 1.0%			
14	公会堂・集会場	64 0.7%			
15	官公庁	54 0.6%			
16	その他の場所	52 0.5%			
17	各種学校	42 0.4%			
17	公衆浴場等	39 0.4%			
19	寺・神社等	38 0.4%			
19	旅館・ホテル等	38 0.4%			

表3-4 事故種別×発生場所別 (0～5歳 6,941人)

一般負傷(6,900人) ※上位20			運動による事故(9人)		
1	共同住宅	2,918 42.3%	1	運動場等	4 44.4%
2	一般住宅	1,778 25.8%	2	小学校	2 22.2%
3	一般道路	481 7.0%	3	その他の場所	1 11.1%
4	公園・広場等	404 5.9%	3	その他公衆出入	1 11.1%
5	デパート等	216 3.1%	3	共同住宅	1 11.1%
6	マーケット等	196 2.8%	水による事故(32人)		
7	駅	155 2.2%	1	一般住宅	15 46.9%
8	待合・料理店等	127 1.8%	2	共同住宅	13 40.6%
9	幼稚園・保育園	111 1.6%	3	その他公衆出入	1 3.1%
10	その他公衆出入	82 1.2%	3	河川・池	1 3.1%
11	駐車場・車庫等	65 0.9%	3	各種学校	1 3.1%
12	運動場等	53 0.8%	3	旅館・ホテル等	1 3.1%
13	小学校	39 0.6%			
14	公会堂・集会場	34 0.5%			
15	官公庁	32 0.5%			
16	旅館・ホテル等	30 0.4%			
17	その他の場所	28 0.4%			
17	公衆浴場等	28 0.4%			
19	遊技場	25 0.4%			
20	寺・神社等	20 0.3%			

表3-5 事故種別×発生場所別 (6～12歳 3,149人)

一般負傷(2,782人) ※上位20			運動による事故(360人)		
1	公園・広場等	545 19.6%	1	小学校	177 49.2%
2	小学校	522 18.8%	2	運動場等	142 39.4%
3	共同住宅	512 18.4%	3	公園・広場等	17 4.7%
4	一般住宅	372 13.4%	4	一般住宅	6 1.7%
5	一般道路	267 9.6%	4	共同住宅	6 1.7%
6	運動場等	81 2.9%	6	各種学校	4 1.1%
7	駅	60 2.2%	7	その他公衆出入	2 0.6%
8	その他公衆出入	38 1.4%	8	河川・池	1 0.3%
9	マーケット等	37 1.3%	8	官公庁	1 0.3%
10	駐車場・車庫等	34 1.2%	8	公会堂・集会場	1 0.3%
11	各種学校	32 1.2%	8	診療所・医院	1 0.3%
12	デパート等	31 1.1%	8	遊技場	1 0.3%
12	幼稚園・保育園	31 1.1%	8	幼稚園・保育園	1 0.3%
14	公会堂・集会場	30 1.1%	水による事故(7人)		
15	河川・池	29 1.0%	1	運動場等	4 57.1%
16	待合・料理店等	27 1.0%	2	一般住宅	1 14.3%
17	その他の場所	24 0.9%	2	河川・池	1 14.3%
18	官公庁	22 0.8%	2	以外	1 14.3%
19	寺・神社等	18 0.6%			
20	図書館等	12 0.4%			

第3 事故種別と関連器物からみた事故の傾向

1 一般負傷 (0～5歳：6,900人、6～12歳：2,782人)

- (1) 関連器物のあるもの(以下「該当」とする。)は、0～5歳が5,353人(77.6%)、6～12歳が2,001人(71.9%)、関連器物のないもの(以下「非該当」とする。)は、0～5歳が1,547人(22.4%)、6～12歳が781人(28.1%)である。

- (2) 家具が該当内訳に占める割合は、0～5歳が1,011人(18.9%※)、6～12歳が120人(6.0%)である。(※ %は、該当内訳の%。以下(3)～(6)も同様)
- (3) 階段は、0～5歳が516人(9.6%)、6～12歳が156人(7.8%)である。
- (4) 自転車は、0～5歳が153人(2.9%)、6～12歳が76人(3.8%)である。
- (5) 遊具※は、0～5歳が275人(5.1%)、6～12歳は、377人(18.8%)である。
- (※ 遊具とは、ぶらんこ、すべり台、シーソー、ジャングルジム、雲梯、回転式遊具、すべり棒、その他の遊具をいう。)
- (6) 0～5歳は、その他玩具、タバコ、自転車の補助イス、自転車、異物といった関連器物が特徴である。

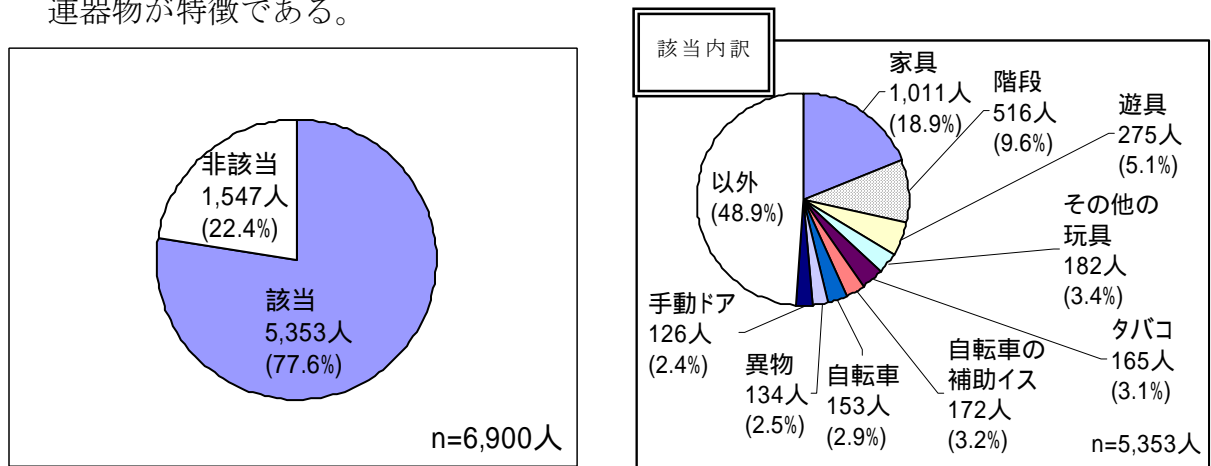


図 3-14 関連器物別割合 (一般負傷 0～5 歳)

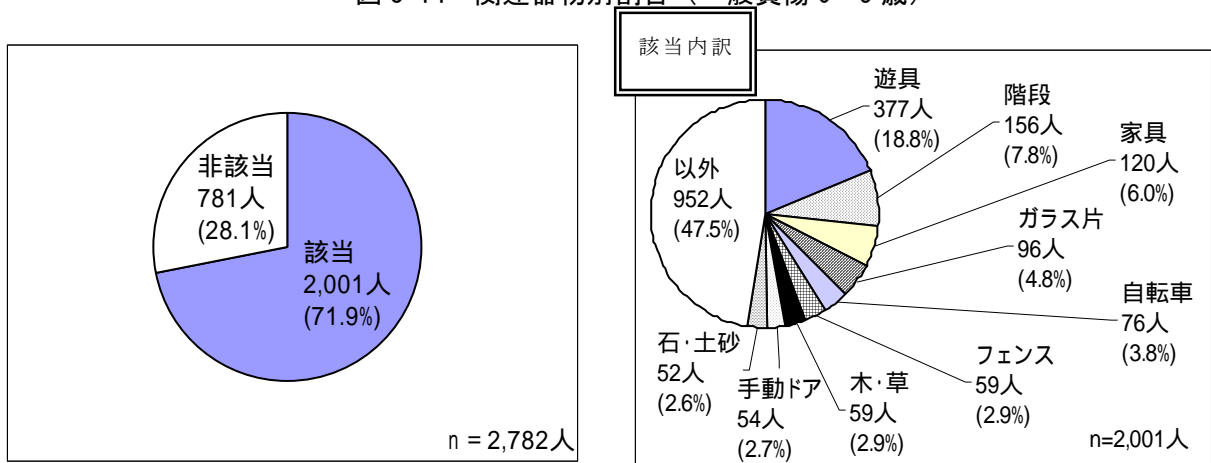


図 3-15 関連器物別割合 (一般負傷 6～12 歳)

2 運動による事故 (0～5歳：9人、6～12歳：360人)

- (1) 0～5歳の事故は9人で、事故全体369人の2.4%である。
- (2) 6～12歳の事故は、非該当が232人(64.4%)である。
 該当内訳では、ボール等54人(42.2%)、その他の運動器具(用具)18人(14.1%)が特徴である。

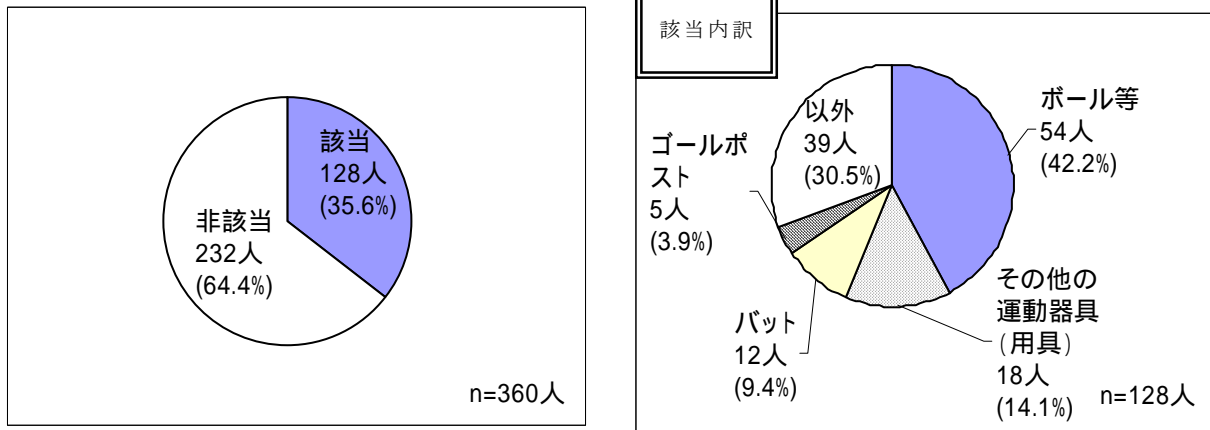


図 3-16 関連器物別割合（運動による事故 6～12 歳）

3 水による事故（0～5歳：32人、6～12歳：7人）

0～5歳の事故、32人のうち関連器物該当は25人である。そのうち、浴槽が21人（84.0%）である。

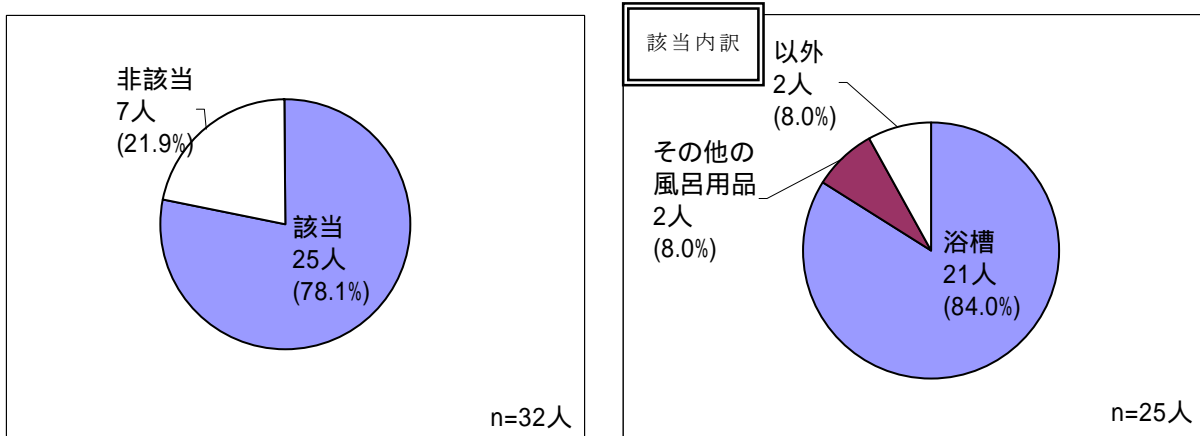


図 3-17 関連器物別割合（一般負傷 0～5 歳）

表3-6 事故種別×関連器物別（0～12歳 10,090人）

一般負傷(9,682人) ※上位20			運動による事故(369人)		
1	家具	1,131 11.7%	1	ボール等	55 14.9%
2	階段	672 6.9%	2	その他の運動器具(用具)	19 5.1%
3	遊具	516 5.3%	3	バット	12 3.3%
4	自転車	229 2.4%	4	ゴールポスト	5 1.4%
5	その他の玩具	209 2.2%	4	スケート	5 1.4%
6	ガラス片	190 2.0%		非該当	235 63.7%
7	手動ドア	180 1.9%	水による事故(39人)		
8	自転車の補助イス	177 1.8%	1	浴槽	22 56.4%
9	タバコ	166 1.7%	2	その他の風呂用品	2 5.1%
10	その他の遊具	144 1.5%	3	その他の玩具	1 2.6%
11	異物	141 1.5%	3	清掃用具	1 2.6%
12	窓・サッシ	128 1.3%		非該当	13 33.3%
13	壁・塀	120 1.2%			
14	その他の施設・設備・器具	118 1.2%			
15	ベビーカー	107 1.1%			
16	味噌汁・スープ	94 1.0%			
17	薬剤等によるもの	89 0.9%			
18	木・草	87 0.9%			
18	フェンス	86 0.9%			
20	柱・電柱	80 0.8%			
	非該当	2,328 24.0%			

表3-7 事故種別×関連器物別 (0~5歳 6,941人)

一般負傷(6,900人) ※上位20			運動による事故(9人)		
1	家具	1,011 14.7%	1	スケート	2 22.2%
2	階段	516 7.5%	2	その他の運動器具(用具)	1 11.1%
3	遊具	275 4.0%	2	その他の施設・設備・器具	1 11.1%
4	その他の玩具	182 2.6%	2	ボール等	1 11.1%
5	自転車の補助イス	172 2.5%	2	その他	1 11.1%
6	タバコ	165 2.4%		非該当	3 33.3%
7	自転車	153 2.2%	水による事故(32人)		
8	異物	134 1.9%	1	浴槽	21 65.6%
9	手動ドア	126 1.8%	2	その他の風呂用品(ハビ-バス)	2 6.3%
10	ベビーカー	107 1.6%	3	その他の玩具(浮き輪)	1 3.1%
11	ガラス片	94 1.4%	3	清掃用具(バケツ)	1 3.1%
12	窓・サッシ	92 1.3%		非該当	7 21.9%
13	その他の施設・設備・器具	85 1.2%			
14	味噌汁・スープ	81 1.2%			
15	薬剤等によるもの	78 1.1%			
16	壁・塀	71 1.0%			
17	お茶・コーヒー類	60 0.9%			
18	その他の固形、液体食品	59 0.9%			
18	魚等の骨	59 0.9%			
20	柱・電柱	50 0.9%			
	非該当	1,547 22.4%			

表3-8 事故種別×関連器物別 (6~12歳 3,149人)

一般負傷(2,782人) ※上位20			運動による事故(360人)		
1	遊具	377 13.6%	1	ボール等	54 15.0%
2	階段	156 5.6%	2	その他の運動器具(用具)	18 5.0%
3	家具	120 4.3%	3	バット	12 3.3%
4	ガラス片	96 3.5%	4	ゴールポスト	5 1.4%
5	自転車	76 2.7%		非該当	232 64.4%
6	フェンス	59 2.1%	水による事故(7人)		
6	木・草	59 2.1%	1	浴槽	1 14.3%
8	手動ドア	54 1.9%		非該当	6 85.7%
9	石・土砂	52 1.9%			
10	壁・塀	49 1.8%			
11	虫	47 1.7%			
12	窓・サッシ	36 1.3%			
13	その他の施設・設備・器具	33 1.2%			
14	ボール等	31 1.1%			
15	刃物類	30 1.1%			
15	柱・電柱	30 1.1%			
17	動物等	28 1.0%			
18	その他の玩具	27 1.0%			
19	その他の運動器具(用具)	25 0.9%			
20	屋根・瓦等	19 0.7%			
	非該当	781 0.9%			

第4 事故種別と受傷形態及び発生場所からみた事故の傾向

表3-9 事故種別×年齢×受傷形態 【2005. 4. 1～11. 30(10,090人)】

事故種別		受傷形態	人数	割合	事故種別	受傷形態	人数	割合	
事故種別 全体10,090人		転倒	3,653	(36.2%)	事故種別 (運動による事故 369人)	転倒	3	(33.3%)	
		墜落・転落	1,921	(19.0%)		衝突	2	(22.2%)	
		異物・誤飲	1,041	(10.3%)		飛来物・落下物	2	(22.2%)	
		衝突	675	(6.7%)		以外	2	(22.2%)	
		挟まれ	588	(5.8%)		6～12歳 360人 (97.6%)	転倒	147	(40.8%)
		以外	2,212	(21.9%)			衝突	77	(21.4%)
事故種別 (一般負傷 9,682人)	0～5歳 6,900人 (71.3%)	転倒	2,519	(36.5%)	飛来物・落下物		39	(10.8%)	
		墜落・転落	1,303	(18.9%)	墜落・転落		18	(5.0%)	
		異物・誤飲	953	(13.8%)	以外	79	(21.9%)		
	6～12歳 2,782人 (28.7%)	挟まれ	424	(6.1%)	0～5歳 32人 (82.1%)	家庭での溺水(風呂等)	24	(75.0%)	
		衝突	360	(5.2%)		不慮の溺水	3	(9.4%)	
		以外	1,341	(19.4%)		遊泳中の溺水	3	(9.4%)	
6～12歳 2,782人 (28.7%)	転倒	984	(35.4%)	以外	2	(6.3%)			
	墜落・転落	600	(21.6%)	6～12歳 7人 (17.9%)	遊泳中の溺水	5	(71.4%)		
	衝突	236	(8.5%)		家庭での溺水(風呂等)	1	(14.3%)		
	挟まれ	161	(5.8%)	不慮の溺水	1	(14.3%)			
以外	801	(28.8%)							

1 一般負傷 (0～5歳：6,900人、6～12歳：2,782人)

- (1) 転倒は、0～5歳が2,519人(36.5%)、6～12歳が984人(35.4%)である。
- (2) 墜落・転落は、0～5歳が1,303人(18.9%)、6～12歳が600人(21.6%)である。
- (3) 挟まれは、0～5歳が424人(6.1%)、6～12歳が161人(5.8%)である。
- (4) 衝突は、0～5歳が360人(5.2%)、6～12歳が236人(8.5%)である。
- (5) 異物・誤飲は0～5歳が953人(13.8%)であり、他の受傷形態に比べると発生場所は、共同住宅、一般住宅における割合が93.2%と非常に高い。

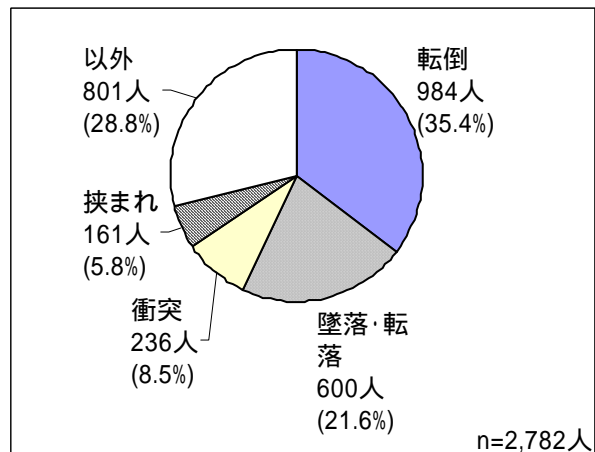
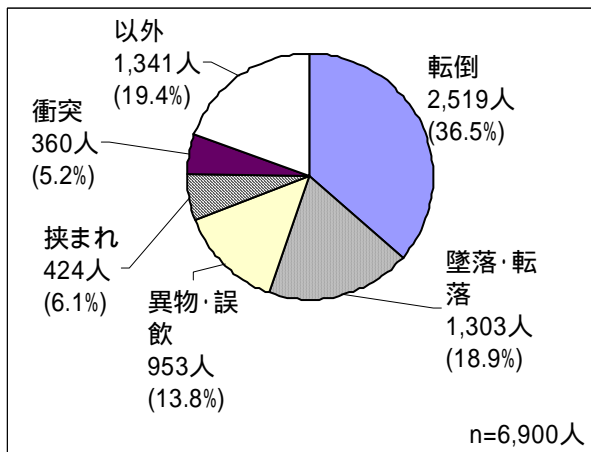


図3-18 受傷形態別割合 (一般負傷0～5歳)

図3-19 受傷形態別割合 (一般負傷6～12歳)

表 3-10 受傷形態と発生場所（一般負傷 0～5 歳） ※ 発生場所については上位 10 とした

転倒 (2,519人)			墜落・転落 (1,303人)			異物・誤飲 (953人)		
1 共同住宅	900	35.7%	1 一般住宅	455	34.9%	1 共同住宅	593	62.2%
2 一般住宅	535	21.2%	2 共同住宅	420	32.2%	2 一般住宅	295	31.0%
3 一般道路	264	10.5%	3 公園・広場等	132	10.1%	3 一般道路	13	1.4%
4 公園・広場等	172	6.8%	4 一般道路	80	6.1%	4 待合・料理店等	9	0.9%
5 デパート等	107	4.2%	5 マーケット等	37	2.8%	5 公園・広場等	7	0.7%
6 マーケット等	103	4.1%	6 駅	28	2.1%	6 デパート等	5	0.5%
7 待合・料理店等	55	2.2%	7 デパート等	23	1.8%	7 マーケット等	5	0.5%
8 幼稚園・保育園	54	2.1%	8 幼稚園・保育園	23	1.8%	8 幼稚園・保育園	5	0.5%
9 その他公衆出入	50	2.0%	9 待合・料理店等	22	1.7%	9 病院	4	0.4%
10 駅	50	2.0%	10 その他公衆出入	13	1.0%	10 旅館・ホテル等	3	0.3%

} 93.2%

挟まれ (424人)			衝突 (360人)		
1 共同住宅	146	34.4%	1 共同住宅	149	41.4%
2 一般道路	54	12.7%	2 一般住宅	79	21.9%
3 駅	54	12.7%	3 公園・広場等	38	10.6%
4 一般住宅	51	12.0%	4 一般道路	20	5.6%
5 デパート等	39	9.2%	5 デパート等	18	5.0%
6 マーケット等	19	4.5%	6 マーケット等	14	3.9%
7 駐車場・車庫等	16	3.8%	7 幼稚園・保育園	11	3.1%
8 公園・広場等	11	2.6%	8 待合・料理店等	5	1.4%
9 その他公衆出入	6	1.4%	9 小学校	4	1.1%
10 待合・料理店等	6	1.4%	10 駅	3	0.8%

表 3-11 受傷形態と発生場所（一般負傷 6～12 歳）

転倒 (984人) ※ 上位10			墜落・転落 (600人) ※ 上位10			衝突 (236人) ※ 上位10		
1 小学校	219	22.3%	1 公園・広場等	216	36.0%	1 小学校	70	29.7%
2 公園・広場等	149	15.1%	2 小学校	132	22.0%	2 公園・広場等	46	19.5%
3 一般道路	144	14.6%	3 共同住宅	81	13.5%	3 共同住宅	38	16.1%
4 共同住宅	138	14.0%	4 一般住宅	59	9.8%	4 一般住宅	22	9.3%
5 一般住宅	113	11.5%	5 一般道路	21	3.5%	5 一般道路	12	5.1%
6 運動場等	21	2.1%	6 駅	14	2.3%	6 運動場等	11	4.7%
7 デパート等	19	1.9%	7 運動場等	11	1.8%	7 マーケット等	8	3.4%
7 駅	19	1.9%	7 幼稚園・保育園	11	1.8%	8 駅	3	1.3%
7 駐車場・車庫等	19	1.9%	9 各種学校	8	1.3%	8 公会堂・集会場	3	1.3%
10 マーケット等	16	1.6%	10 その他公衆出入	7	1.2%	8 幼稚園・保育園	3	1.3%

挟まれ (161人) ※ 上位10			異物・誤飲 (88人) ※ 上位7		
1 一般道路	39	24.2%	1 共同住宅	41	46.6%
2 共同住宅	32	19.9%	2 一般住宅	23	26.1%
3 駅	18	11.2%	3 待合・料理店等	6	6.8%
4 小学校	17	10.6%	4 一般道路	3	3.4%
5 一般住宅	13	8.1%	5 公園・広場等	3	3.4%
6 公園・広場等	9	5.6%	6 小学校	3	3.4%
7 マーケット等	6	3.7%	7 各種学校	2	2.3%
8 運動場等	4	2.5%			
9 デパート等	3	1.9%			
9 各種学校	3	1.9%			

2 運動による事故（0～5歳：9人、6～12歳：360人）

- (1) 全事故数 369 人のうち、6～12歳が 360 人（97.6%）を占めるため、6～12歳に着目する。
- (2) 6～12歳では転倒が 147 人（40.8%）、墜落・転落が 18 人（5.0%）である。
- (3) 衝突は、6～12歳で 77 人（21.4%）である。
- (4) 飛来物・落下物は、6～12歳で 39 人（10.8%）である。

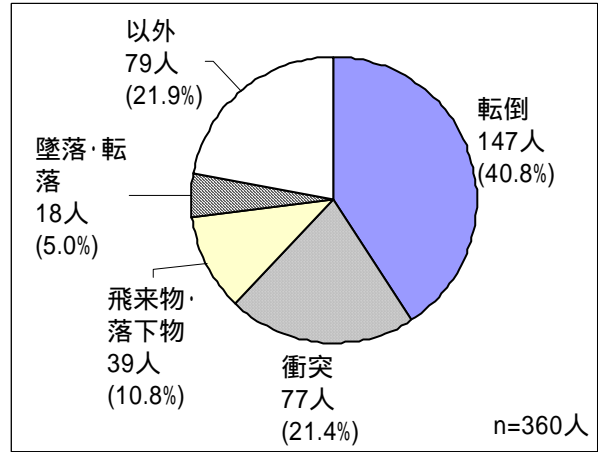
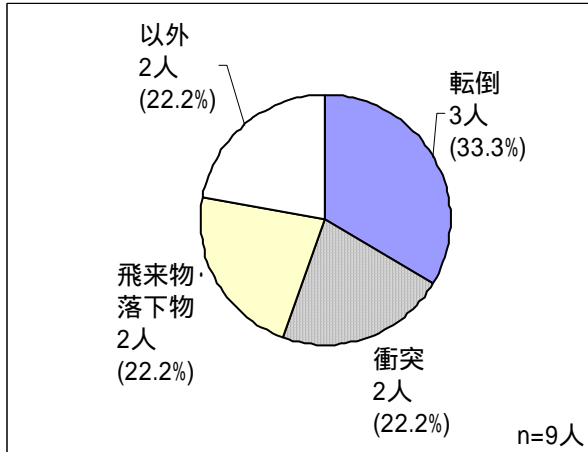


図 3-15 受傷形態別割合（運動による事故 0～5 歳） 図 3-16 受傷形態別割合（運動による事故 6～12 歳）

3 水による事故（0～5歳：32人、6～12歳：7人）

溺水が0～5歳は30人（93.8%）、6～12歳は7人（100.0%）である。

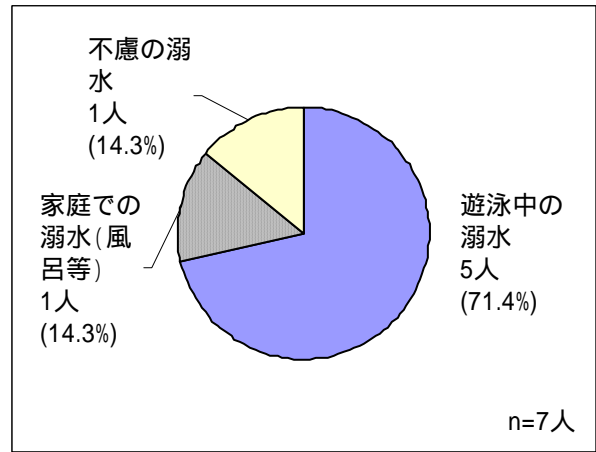
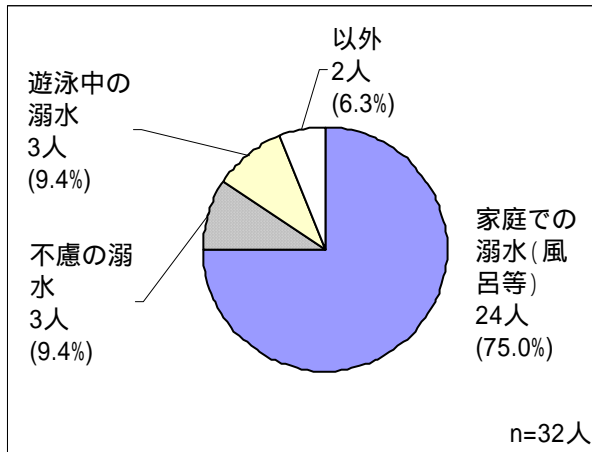


図 3-17 受傷形態別割合（水による事故 0～5 歳） 図 3-18 受傷形態別割合（水による事故 6～12 歳）

第5 事故種別と初診時程度からみた事故の傾向

1 一般負傷（0～5歳：6,900人、6～12歳：2,782人）

- (1) 軽症は、0～5歳が6,578人（95.3%）、6～12歳が2,453人（88.2%）である。
- (2) 中等症以上は、0～5歳が315人（4.6%【中等症：278人、重症：30人、7人】）、6～12歳が328人（11.8%【中等症：305人、重症：15人、重篤：8人】）。
- (3) 中等症以上の割合は、6～12歳が、0～5歳と比較すると2倍以上高くなっている。

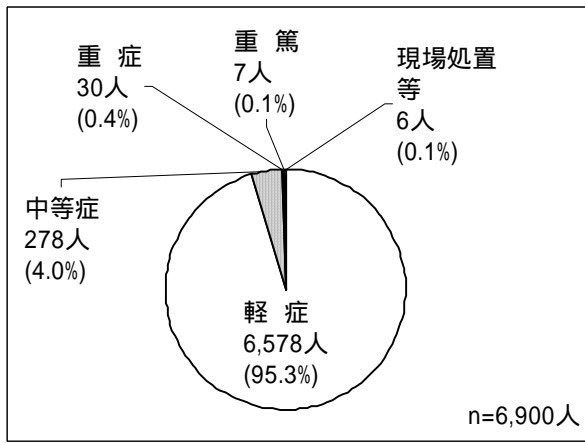


図 3-19 初診時程度別割合（一般負傷 0～5 歳）

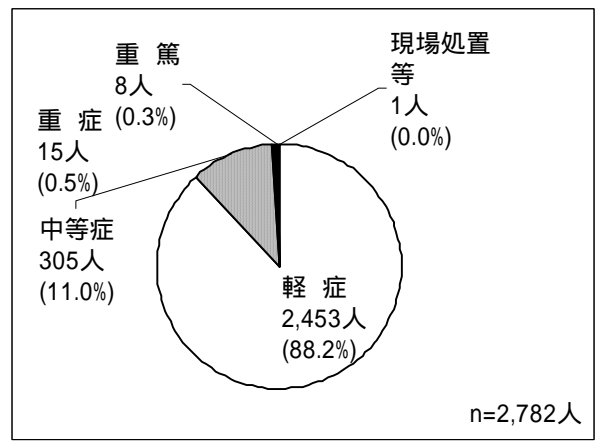


図 3-20 初診時程度別割合（一般負傷 6～12 歳）

2 運動による事故（0～5歳：9人、6～12歳：360人）

- (1) 軽症は、0～5歳が9人（100.0%）、6～12歳は308人（85.6%）である。
- (2) 中等症は、6～12歳が52人（14.4%）である。

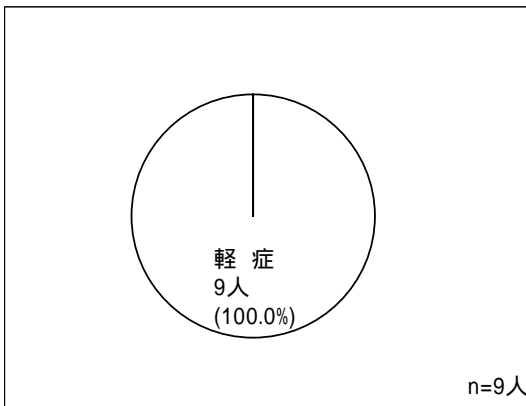


図 3-21 初診時程度別割合（運動による事故 0～5 歳）

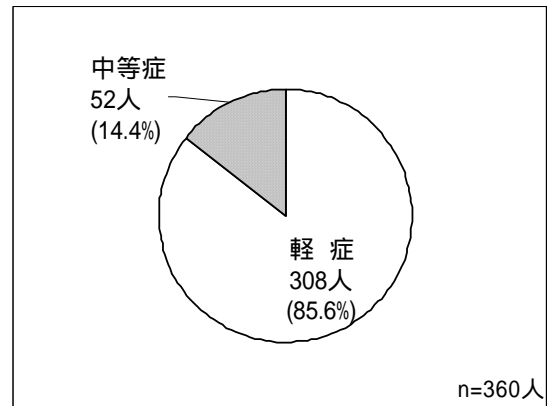


図 3-22 初診時程度別割合（運動による事故 6～12 歳）

3 水による事故（0～5歳：32人、6～12歳：7人）

- (1) 軽症は、0～5歳が12人（37.5%）、6～12歳が3人（42.9%）である。
- (2) 中等症以上は、0～5歳が20人（62.5%【中等症：12人、重症：3人、重篤：5人】）、6～12歳が4人（57.1%【中等症：3人、重篤：1人】）である。
- (3) 0～5歳の中等症以上は全体の62.5%を占め、他の事故種別に比べて初診時程度の重い事故の割合が高い。

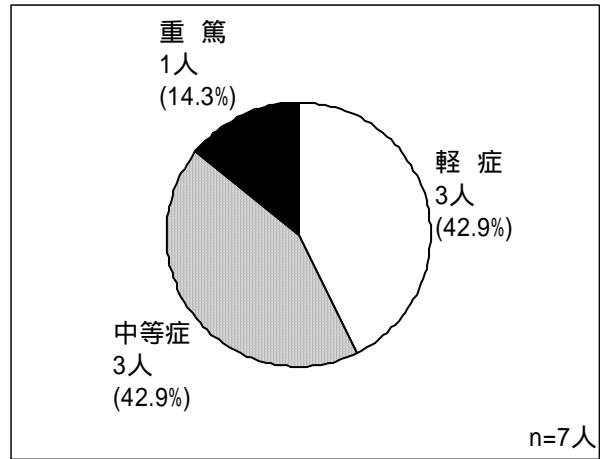
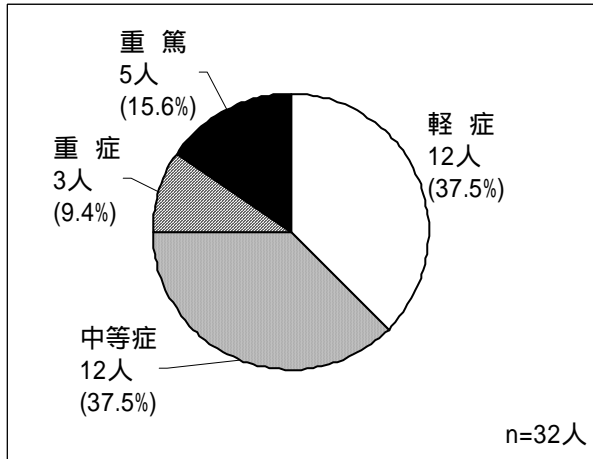


図 3-23 初診時程度別割合 (水による事故 0~5 歳) 図 3-24 初診時程度別割合 (水による事故 6~12 歳)

4 中等症以上の事故種別割合

- (1) 中等症では、0~5歳の一般負傷が278人(95.9%)、水による事故が12人(4.1%)、6~12歳の一般負傷が305人(84.7%)、運動による事故が52人(14.4%)、水による事故が3人(0.8%)である。
- (2) 重症では、0~5歳の一般負傷が30人(90.9%)、水による事故が3人(9.1%)、6~12歳の一般負傷が15人(100.0%)である。
- (3) 重篤では、0~5歳の一般負傷が7人(58.3%)、水による事故が5人(41.7%)、6~12歳の一般負傷が8人(88.9%)、水による事故が1人(11.1%)である。

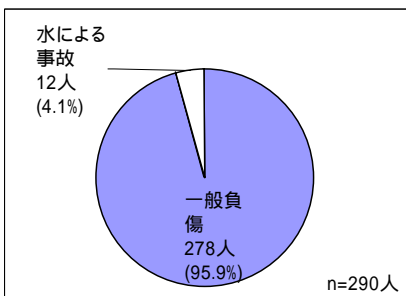


図 3-25 中等症の事故種別割合 (0~5 歳)

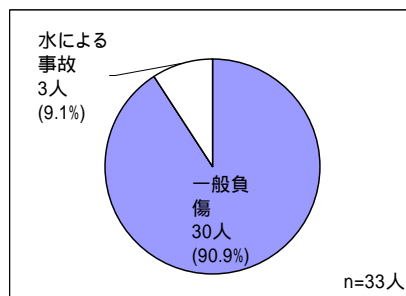


図 3-26 重症の事故種別割合 (0~5 歳)

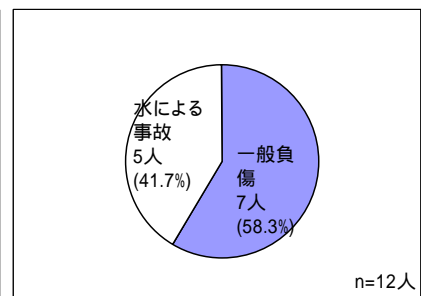


図 3-27 重篤の事故種別割合 (0~5 歳)

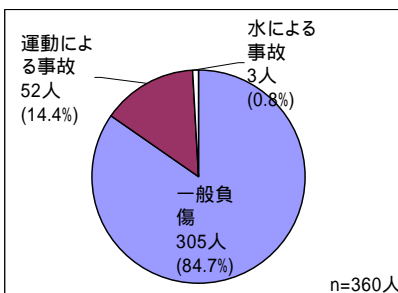


図 3-28 中等症の事故種別割合 (6~12 歳)

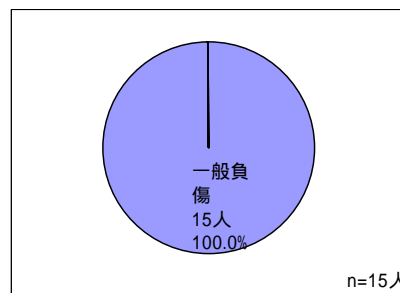


図 3-29 重症の事故種別割合 (6~12 歳)

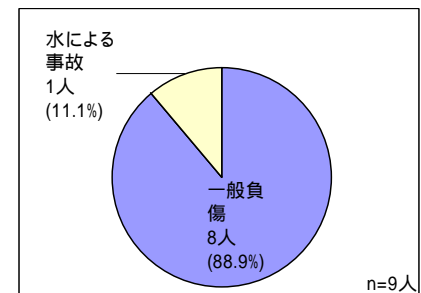


図 3-30 重篤の事故種別割合 (6~12 歳)

表 3-12 事故種別×年齢×受傷形態×初診時程度（事故種別割合）

		受傷形態	軽 症	中等症	重 症	重 篤	死 亡	現場処置等	
事故種別全体 (0～12歳) 10,090人		転倒	3,450 (36.8%)	194 (29.8%)	6 (12.5%)	2 (9.5%)		1 (14.3%)	
		墜落・転落	1,657 (17.7%)	234 (36.0%)	24 (50.0%)	6 (28.6%)		2 (28.6%)	
		異物・誤飲	978 (10.4%)	56 (8.6%)	3 (6.3%)	2 (9.5%)		2 (28.6%)	
		挟まれ	643 (6.9%)	32 (4.9%)					
		衝突	571 (6.1%)	14 (2.2%)	1 (2.1%)				
		以外	2,064 (22.0%)	120 (18.5%)	14 (29.2%)	11 (52.4%)	1 (100.0%)	2 (28.6%)	
	計	9,363 (100.0%)	650 (100.0%)	48 (100.0%)	21 (100.0%)	1 (100.0%)	7 (100.0%)		
一般負傷 (9,682人)	0～5歳 6,900人 (71.3%)	転倒	2,445 (37.2%)	69 (24.8%)	4 (13.3%)			1 (16.7%)	
		墜落・転落	1,192 (18.1%)	97 (34.9%)	13 (43.3%)	1 (14.3%)			
		異物・誤飲	894 (13.6%)	53 (19.1%)	3 (10.0%)	1 (14.3%)		2 (33.3%)	
		挟まれ	415 (6.3%)	7 (2.5%)	1 (3.3%)			1 (16.7%)	
		衝突	352 (5.4%)	8 (2.9%)					
		以外	1,280 (19.5%)	44 (15.8%)	9 (30.0%)	5 (71.4%)	1 (100.0%)	2 (33.3%)	
		計	6,578 (100.0%)	278 (100.0%)	30 (100.0%)	7 (100.0%)	1 (100.0%)	6 (100.0%)	
	6～12歳 2,782人 (28.7%)	転倒	884 (36.0%)	96 (31.5%)	2 (13.3%)	2 (25.0%)			
		墜落・転落	453 (18.5%)	131 (43.0%)	11 (73.3%)	5 (62.5%)			
		衝突	218 (8.9%)	18 (5.9%)					
		挟まれ	153 (6.2%)	7 (2.3%)				1 (100.0%)	
		以外	745 (30.4%)	53 (17.4%)	2 (13.3%)	1 (12.5%)			
計		2,453 (100.0%)	305 (100.0%)	15 (100.0%)	8 (100.0%)		1 (100.0%)		
運動による事故 (369人)	0～5歳 9人 (2.4%)	転倒	3 (33.3%)						
		衝突	2 (22.2%)						
		飛来物・落下物	2 (22.2%)						
		以外	2 (22.2%)						
		計	9 (100.0%)						
	6～12歳 360人 (97.6%)	転倒	118 (38.3%)	29 (55.8%)					
		衝突	71 (23.1%)	6 (11.5%)					
		飛来物・落下物	39 (12.7%)						
		墜落・転落	12 (3.9%)	6 (11.5%)					
		以外	68 (22.1%)	11 (21.2%)					
		計	308 (100.0%)	52 (100.0%)					
		水による事故 (39人)	0～5歳 32人 (82.1%)	家庭での溺水(風呂等)	10 (83.3%)	9 (75.0%)	2 (66.7%)	3 (60.0%)	
不慮の溺水					2 (16.7%)		1 (20.0%)		
遊泳中の溺水	2 (16.7%)					1 (20.0%)			
以外				1 (8.3%)	1 (33.3%)				
	計		12 (100.0%)	12 (100.0%)	3 (100.0%)	5 (100.0%)			
6～12歳 7人 (17.9%)	家庭での溺水(風呂等)				1 (100.0%)				
	不慮の溺水		1 (33.3%)						
	以外								
	計		3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)				

表3-13 事故種別×年齢×受傷形態×初診時程度（初診時程度割合）

		受傷形態	軽 症	中等症	重 症	重 篤	死 亡	現場処置等	合計
事故種別全体 (0～12歳) 10,090人	転倒	3,450 (94.4%)	194 (5.3%)	6 (0.2%)	2 (0.1%)			1 (0.0%)	3,653 (100.0%)
	墜落・転落	1,657 (86.2%)	234 (12.2%)	24 (1.2%)	6 (0.3%)			2 (0.1%)	1,923 (100.0%)
	異物・誤飲	978 (93.9%)	56 (5.4%)	3 (0.3%)	2 (0.2%)			2 (0.2%)	1,041 (100.0%)
	挟まれ	643 (95.3%)	32 (4.7%)						675 (100.0%)
	衝突	571 (97.4%)	14 (2.4%)	1 (0.2%)					586 (100.0%)
	以外	2,064 (93.3%)	120 (5.4%)	14 (0.6%)	11 (0.5%)	1 (0.0%)	2 (0.1%)	2,212 (100.0%)	
	計	9,363 (92.8%)	650 (6.4%)	48 (0.5%)	21 (0.2%)	1 (0.0%)	7 (0.1%)	10,090 (100.0%)	
一般負傷 (9,682人)	0～5歳 6,900人 (71.3%)	転倒	2,445 (97.1%)	69 (2.7%)	4 (0.2%)			1	2,519 (100.0%)
		墜落・転落	1,192 (91.5%)	97 (7.4%)	13 (1.0%)	1 (0.1%)			1,303 (100.0%)
		異物・誤飲	894 (93.8%)	53 (5.6%)	3 (0.3%)	1 (0.1%)		2 (0.2%)	953 (100.0%)
		挟まれ	415 (97.9%)	7 (1.7%)	1 (0.2%)			1 (0.2%)	424 (100.0%)
		衝突	352 (97.8%)	8 (2.2%)					360 (100.0%)
	以外	1,280 (95.5%)	44 (3.3%)	9 (0.7%)	5 (0.4%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)	1,341 (100.0%)	
	計	6,578 (95.3%)	278 (4.0%)	30 (0.4%)	7 (0.1%)	1 (0.0%)	6 (0.1%)	6,900 (100.0%)	
	6～12歳 2,782人 (28.7%)	転倒	884 (89.8%)	96 (9.8%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)			984 (100.0%)
		墜落・転落	453 (75.5%)	131 (21.8%)	11 (1.8%)	5 (0.8%)			600 (100.0%)
		衝突	218 (92.4%)	18 (7.6%)					236 (100.0%)
		挟まれ	153 (95.0%)	7 (4.3%)				1 (0.6%)	161 (100.0%)
		以外	745 (93.0%)	53 (6.6%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)			801 (100.0%)
	計	2,453 (88.2%)	305 (11.0%)	15 (0.5%)	8 (0.3%)		1 (0.0%)	2,782 (100.0%)	
	運動による事故 (369人)	0～5歳 9人 (2.4%)	転倒	3 (100.0%)					
衝突			2 (100.0%)						2 (100.0%)
飛来物・落下物			2 (100.0%)						2 (100.0%)
以外			2 (100.0%)						2 (100.0%)
計		9 (100.0%)						9 (100.0%)	
6～12歳 360人 (97.6%)		転倒	118 (80.3%)	29 (19.7%)					147 (100.0%)
		衝突	71 (92.2%)	6 (7.8%)					77 (100.0%)
		飛来物・落下物	39 (100.0%)						39 (100.0%)
		墜落・転落	12 (66.7%)	6 (33.3%)					18 (100.0%)
		以外	68 (86.1%)	11 (13.9%)					79 (100.0%)
	計	308 (85.6%)	52 (14.4%)					360 (100.0%)	
水による事故 (39人)	0～5歳 32人 (82.1%)	家庭での溺水(風呂等)	10 (41.7%)	9 (37.5%)	2 (8.3%)	3 (12.5%)			24 (100.0%)
		不慮の溺水		2 (66.7%)		1 (33.3%)			3 (100.0%)
		遊泳中の溺水	2 (66.7%)			1 (33.3%)			3 (100.0%)
		以外		1 (50.0%)	1 (50.0%)				2 (100.0%)
	計	12 (37.5%)	12 (37.5%)	3 (9.4%)	5 (15.6%)			32 (100.0%)	
	6～12歳 7人 (17.9%)	遊泳中の溺水	2 (40.0%)	3 (60.0%)					5 (100.0%)
		家庭での溺水(風呂等)			1 (100.0%)				1 (100.0%)
		不慮の溺水	1 (100.0%)						1 (100.0%)
以外									
計	3 (42.9%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)				7 (100.0%)		

第6 関連器物と受傷形態及び初診時程度からみた事故の傾向

1 家具（0～5歳：1,011人、6～12歳：120人）

0～5歳、6～12歳のいずれも、転倒、墜落・転落の割合が高く、転倒してぶつかる、椅子やテーブルの上から落ちるなどの事例が多いといえる。軽症が9割以上である。

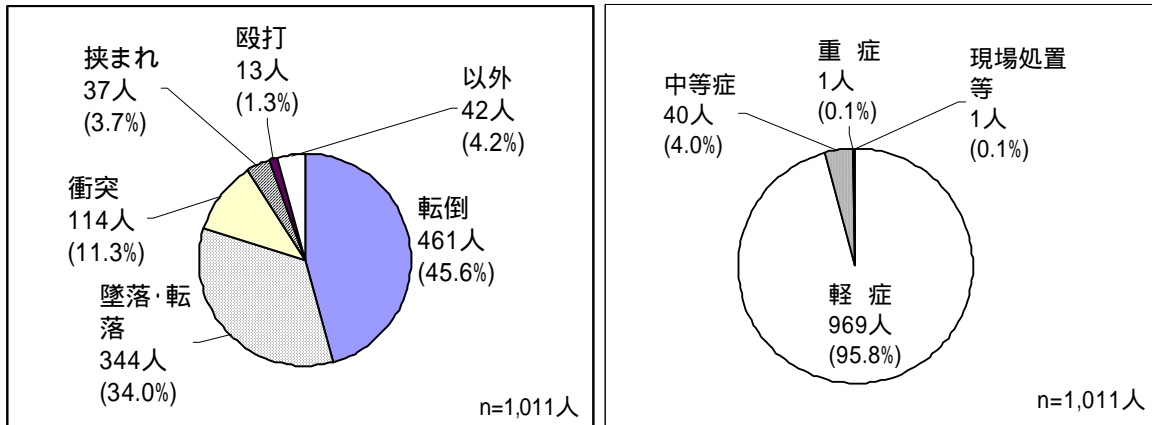


図 3-31 受傷形態と初診時程度 (家具 0～5 歳)

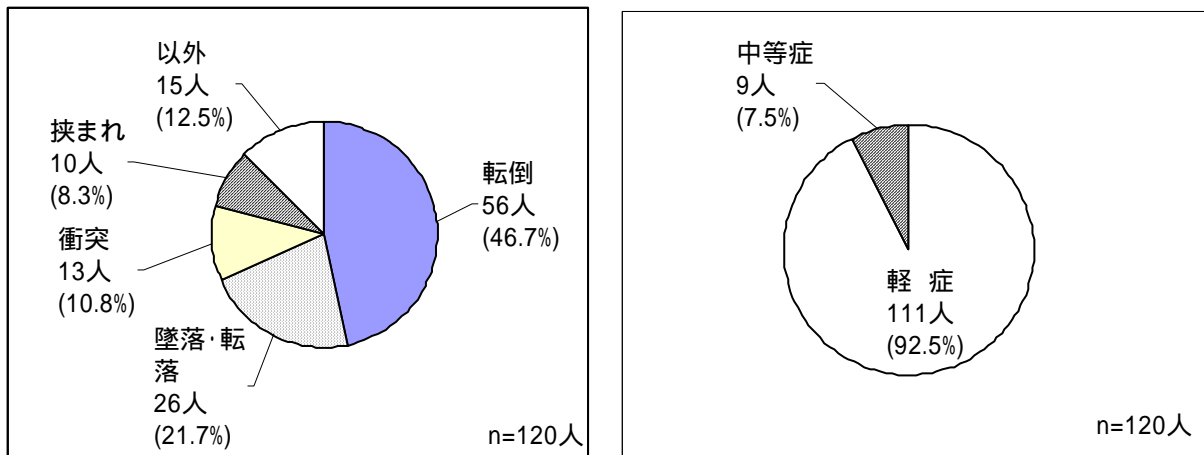


図 3-32 受傷形態と初診時程度 (家具 6～12 歳)

2 階段（0～5歳：516人、6～12歳：156人）

0～5歳、6～12歳のいずれも、転倒、墜落・転落で占められる。中等症以上は、0～5歳が20人(3.9%【中等症：18人、重症：2人】)、6～12歳が19人(12.2%【中等症：19人】)である。

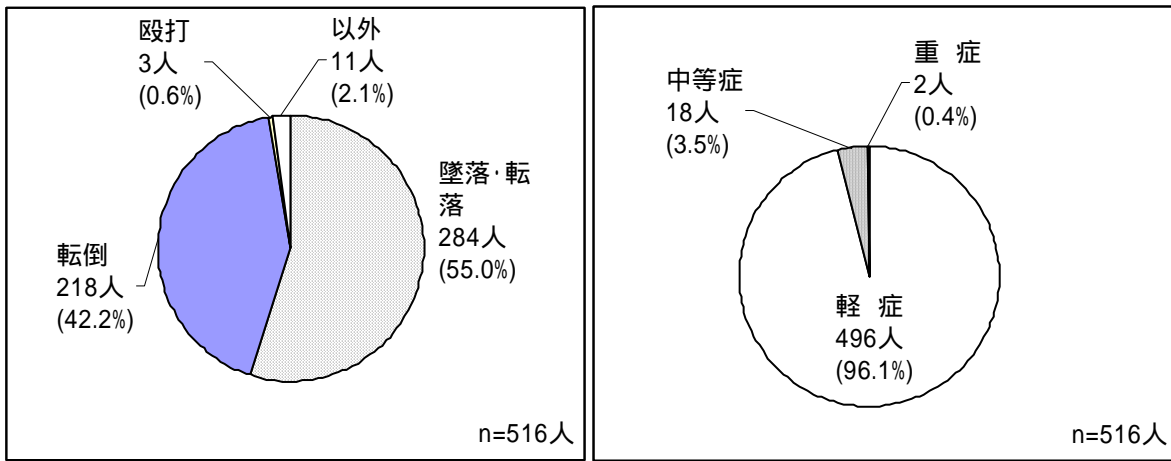


図 3-33 受傷形態と初診時程度 (階段 0~5 歳)

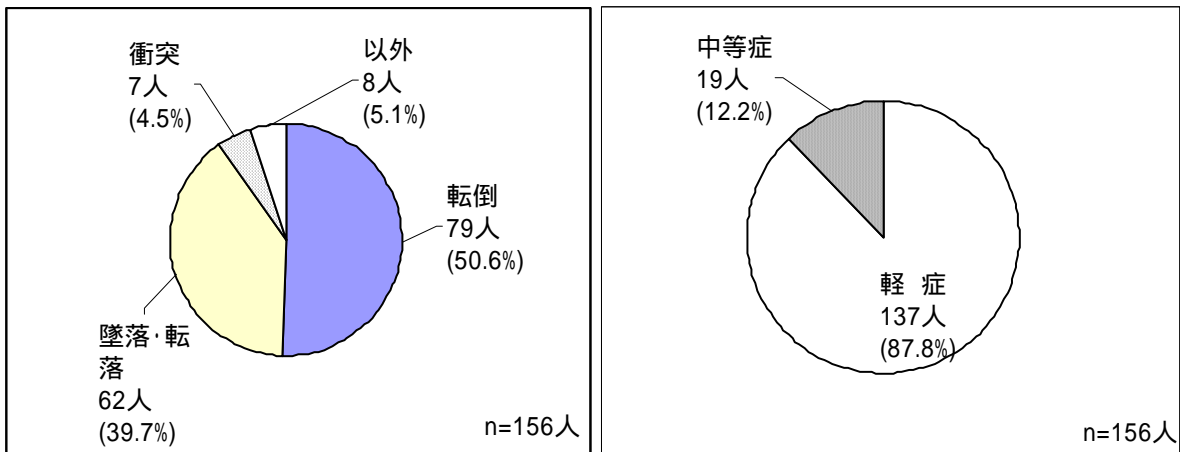


図 3-34 受傷形態と初診時程度 (階段 6~12 歳)

3 遊具 (0~5 歳 : 275 人、6~12 歳 : 377 人)

(1) 種別割合

6~12 歳は、0~5 歳に比べ、鉄棒、雲梯、ジャングルジムの割合が高くなっている。

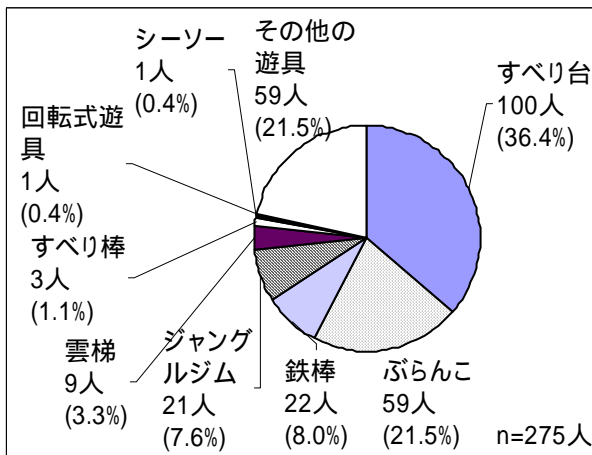


図 3-35 遊具の種別割合 (0~5 歳)

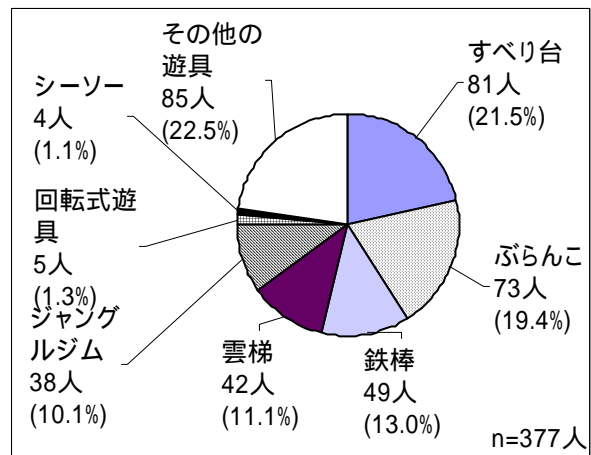


図 3-36 遊具の種別割合 (6~12 歳)

(2) 受傷形態と初診時程度

各遊具別に受傷形態と初診時程度を表すと、以下のとおりである。

雲梯では、0～5歳、6～12歳いずれも中等症以上の割合が他の遊具に比べて高くなっている。また、6～12歳は、0～5歳に比べ中等症以上の割合が高い。

ア すべり台

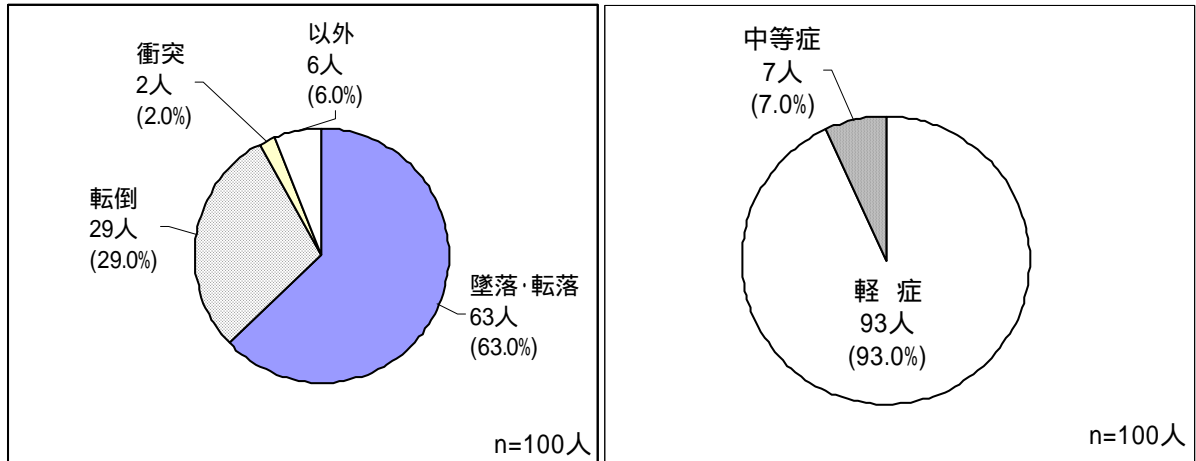


図 3-37 受傷形態と初診時程度 (すべり台 0～5 歳)

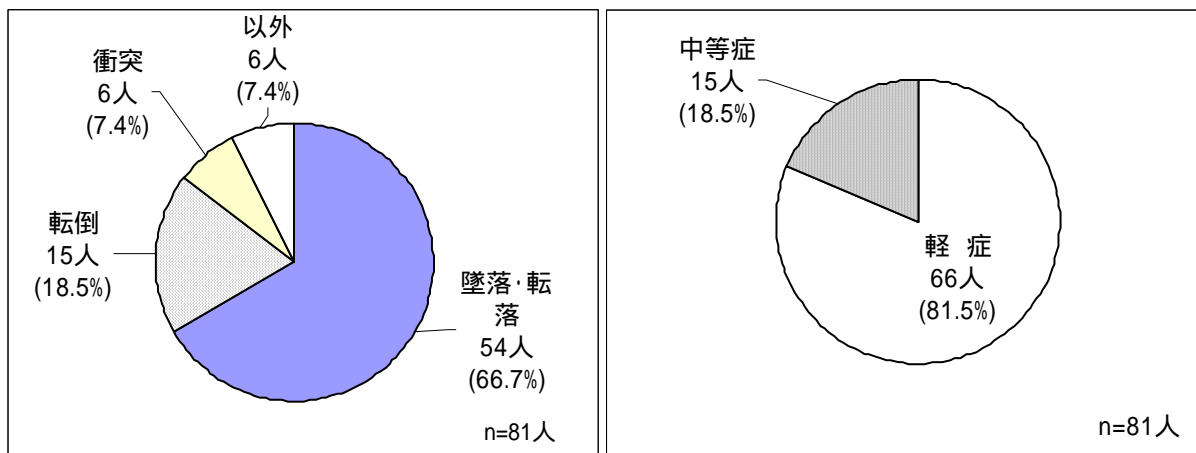


図 3-38 受傷形態と初診時程度 (すべり台 6～12 歳)

イ ぶらんこ

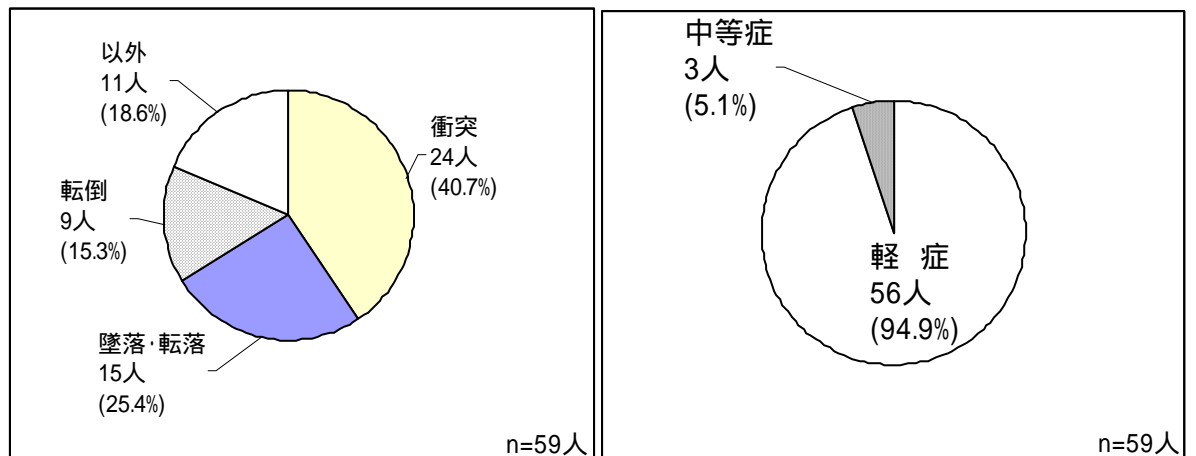


図 3-39 受傷形態と初診時程度 (ぶらんこ 0～5 歳)

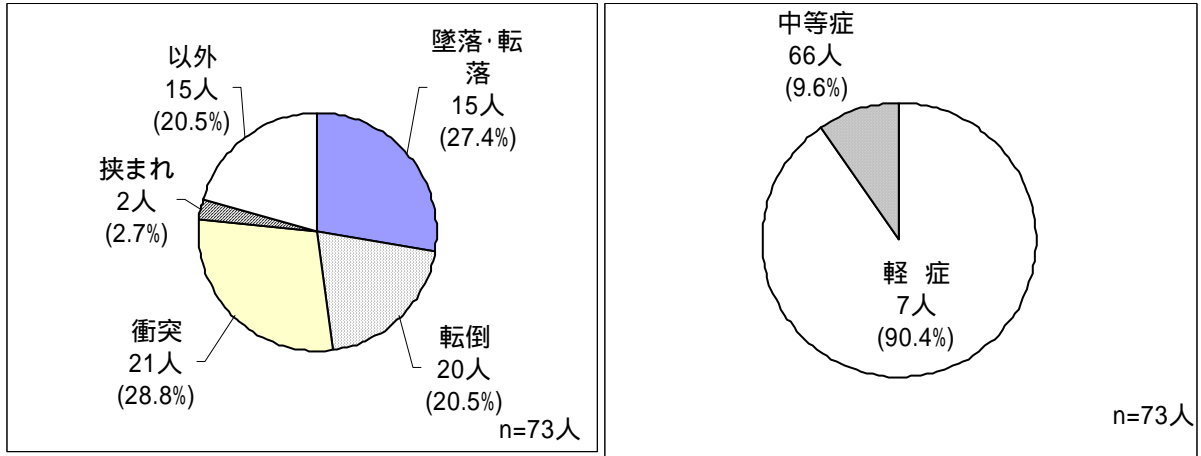


図 3-40 受傷形態と初診時程度 (ぶらんこ 6~12 歳)

ウ 鉄棒

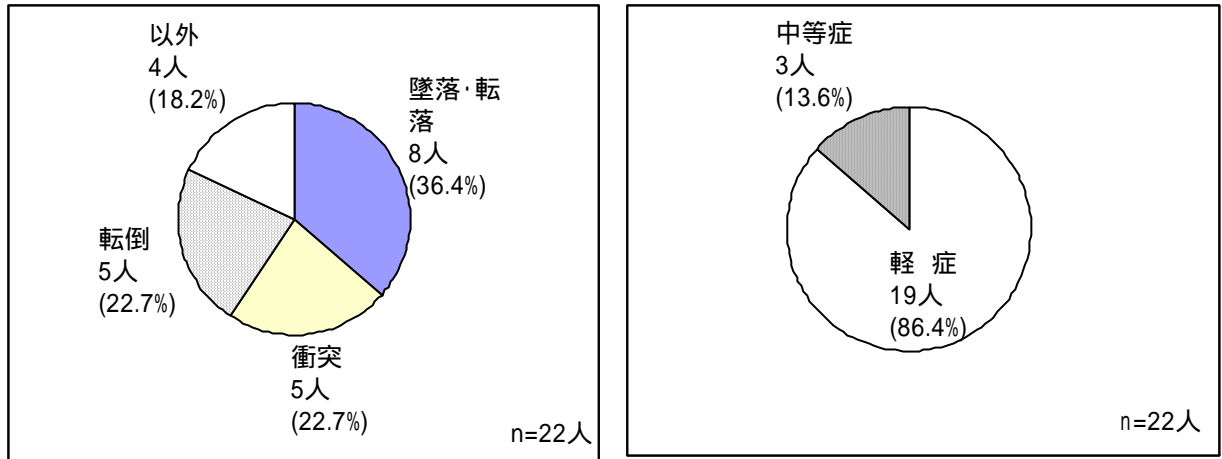


図 3-41 受傷形態と初診時程度 (鉄棒 0~5 歳)

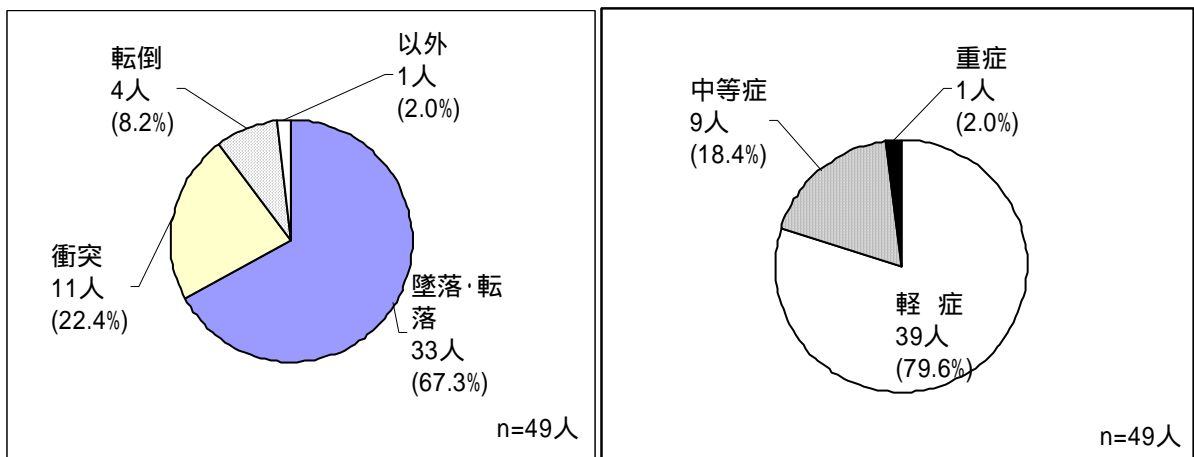


図 3-42 受傷形態と初診時程度 (鉄棒 6~12 歳)

エ 雲梯

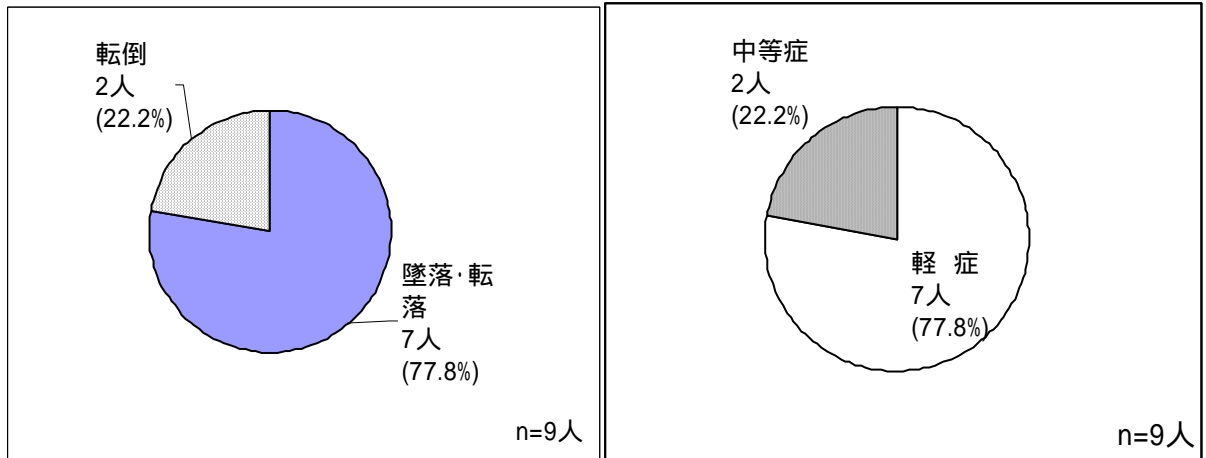


図 3-43 受傷形態と初診時程度 (雲梯 0~5 歳)

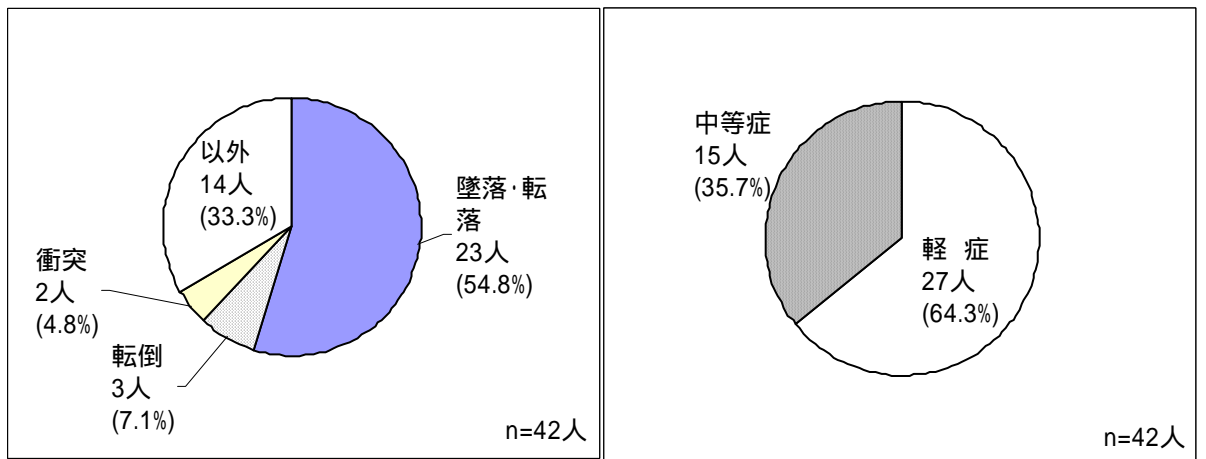


図 3-44 受傷形態と初診時程度 (雲梯 6~12 歳)

オ ジャングルジム

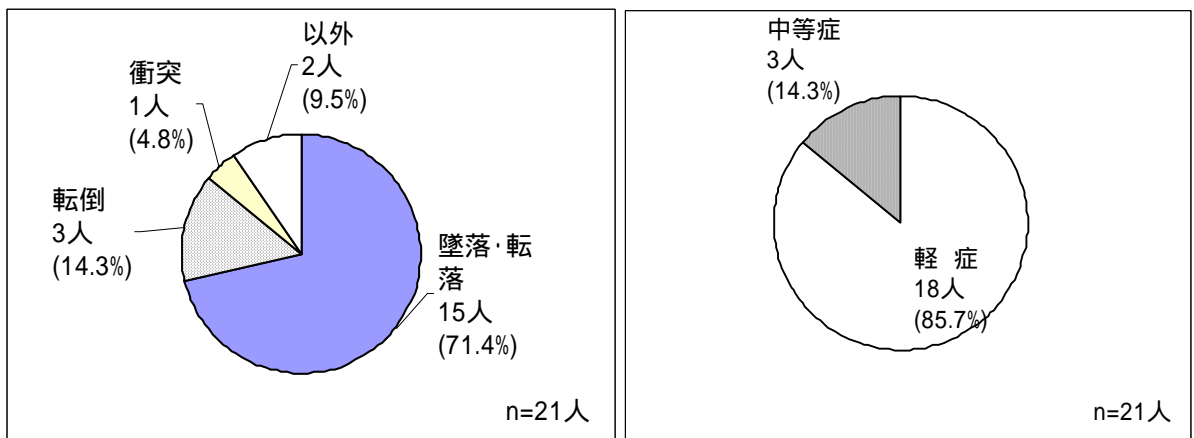


図 3-45 受傷形態と初診時程度 (ジャングルジム 0~5 歳)

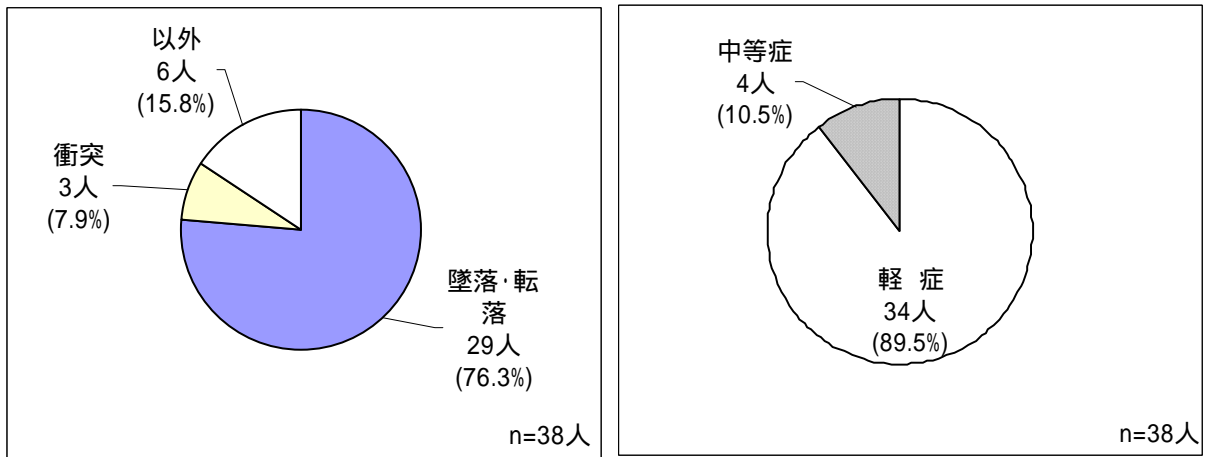


図 3-46 受傷形態と初診時程度 (ジャングルジム 6~12 歳)

4 その他の玩具

その他の玩具は、0~5歳に特徴の関連器物で、182人の受傷がある。そのうち、異物・誤飲が70人(38.5%)で割合が高くなっている。

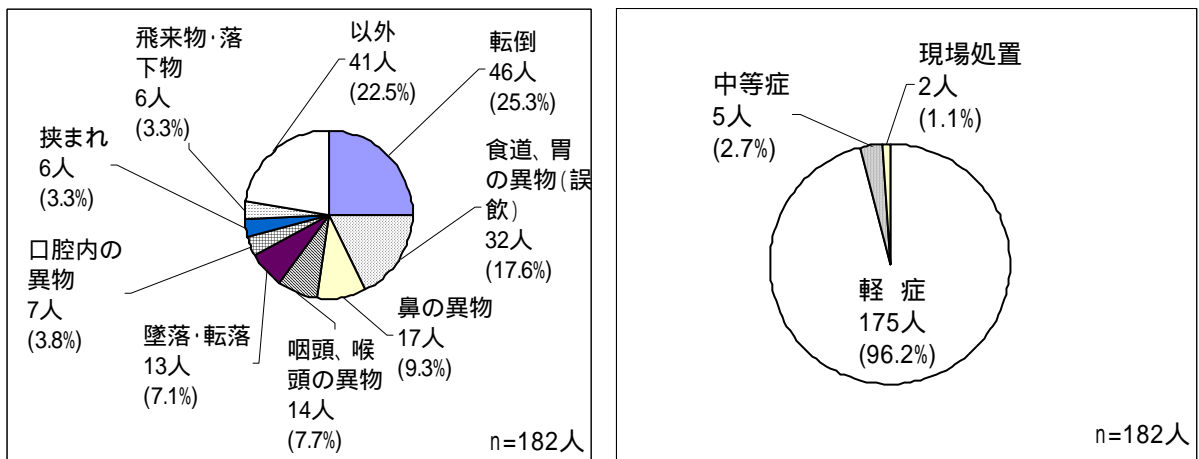


図 3-47 受傷形態と初診時程度 (その他の玩具 0~5 歳)

5 自転車の補助イス

自転車の補助イスは、0~5歳に特徴の関連器物で、172人の受傷がある。保護者が、補助イスに子供を乗せたまま自転車を離れている間に転倒、墜落・転落した事例が多い。

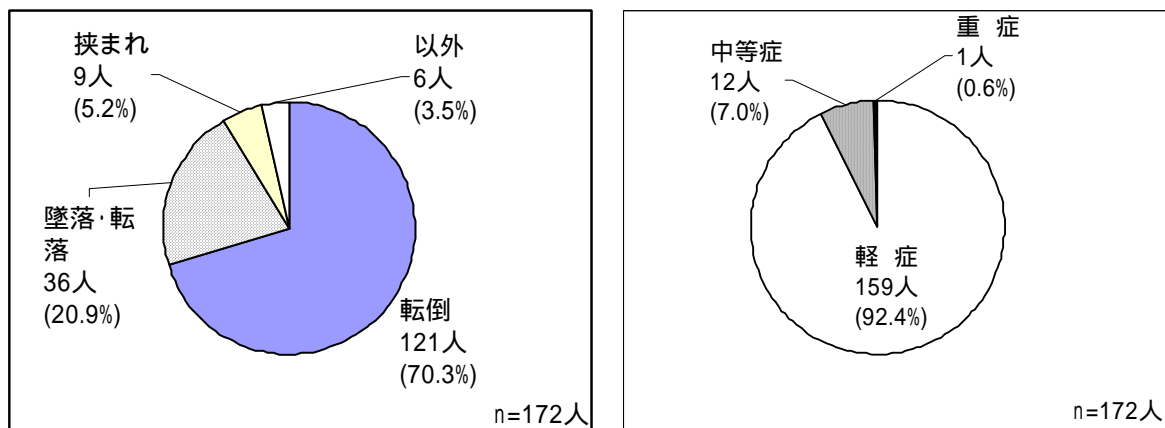


図 3-48 受傷形態と初診時程度 (自転車の補助イス 0~5 歳)

表 3-14 受傷形態×関連器物×初診時程度 (0~5歳一般負傷 6,900人)

転倒(2,519人)							墜落・転落(1,303人)						
	軽症	中等症	重症	現場処置等	計	%		軽症	中等症	重症	現場処置等	計	%
1 家具	450	9	1	1	461	18.3%	1 家具	322	23			345	26.5%
2 階段	213	5			218	8.7%	2 階段	269	13	2		284	21.8%
3 自転車の補助イス	112	8	1		121	4.8%	3 すべり台	56	7			63	4.8%
4 自転車	61	2			63	2.5%	4 ベビーカー	43	3			46	3.5%
5 ベビーカー	48	1			49	1.9%	5 自転車の補助イス	33	3			36	2.8%
6 その他の玩具	45	1			46	1.8%	6 その他の遊具	25	4			29	2.2%
7 その他	42	2			44	1.7%	7 窓・サッシ	14	4	2	1	21	1.6%
8 壁・塀	39				39	1.5%	8 踏み台	16				16	1.2%
9 窓・サッシ	34				34	1.3%	9 ジャンゲルジム	12	3			15	1.2%
10 柱・電柱	33				33	1.3%	9 ぶらんこ	14	1			15	1.2%

異物・誤飲(953人)							挟まれ(424人)						
	軽症	中等症	重症	重篤	現場処置等	計	%		軽症	中等症	重症	計	%
1 タバコ	160	4				164	17.2%	1 手動ドア	89	2		91	21.5%
2 異物	124	7			1	132	13.9%	2 自転車	65			65	15.3%
3 その他の玩具	69	4				73	7.7%	3 エレベーター	37			37	8.7%
4 魚等の骨	57	1				58	6.1%	3 家具	33	4		37	8.7%
5 薬剤等によるもの	47	8				55	5.8%	5 鉄道車両の戸袋	30			30	7.1%
6 ビー玉類	43	1	1			45	4.7%	5 鉄道車両のドア	15			15	3.5%
7 アメ玉類	35					35	3.7%	7 自動車のドア	12			12	2.8%
8 その他の固形・液体食品	29	2	1	1	1	34	3.6%	7 窓・サッシ	12			12	2.8%
9 硬貨	26	4				30	3.1%	9 自動ドア	11			11	2.6%
10 洗剤等	28					28	2.9%	10 その他の施設・設備・器具	10			10	2.4%

表 3-15 受傷形態×関連器物×初診時程度 (0~5歳運動による事故 9人)

転倒(3人)				衝突(2人)			
	軽症	計	%		軽症	計	%
1 スケート	2	2	66.7%	1 その他の運動器具(用具)	1	1	50.0%
2 その他の施設・設備・器具	1	1	33.3%	2 非該当	1	1	50.0%

飛来物・落下物(2人)			
	軽症	計	%
1 ボール等	1	1	50.0%
2 非該当	1	1	50.0%

表 3-16 受傷形態×関連器物×初診時程度 (0~5歳水による事故 32人)

家庭での溺水(風呂等)(24人)						不慮の溺水(3人)					
	軽症	中等症	重症	重篤	計	%		中等症	重篤	計	%
1 浴槽	8	8		3	19	79.2%	1 非該当	1	1	2	66.7%
2 その他の風呂用品	2				2	8.3%	2 浴槽	1		1	33.3%
3 その他の玩具		1			1	4.2%					
3 清掃用具			1		1	4.2%					
3 非該当				1	1	4.2%					

不慮の溺水(3人)				
	計症	重篤	計	%
2 非該当	2	1	3	100.0%

表 3-17 受傷形態×関連器物×初診時程度 (6~12歳一般負傷 2,782人)

転倒(984人)					墜落・転落(600人)					
	軽症	中等症	計	%		軽症	中等症	重症	計	%
1 階段	71	8	79	8.0%	1 階段	55	7		62	12.8%
2 家具	54	2	56	5.7%	2 すべり台	42	12		54	10.3%
3 自転車	25	4	29	2.9%	3 その他の遊具	41	12		53	9.0%
4 その他の遊具	17	1	18	1.8%	4 木・草	28	14	1	43	8.8%
4 フェンス	15	3	18	1.8%	5 雲梯	23	14		37	7.2%
4 壁・塀	17	1	18	1.8%	6 ジャンゲルジム	26	3		29	6.2%
7 柱・電柱	16	1	17	1.7%	7 フェンス	22	5	1	28	4.8%
8 ぶらんこ	13	2	15	1.5%	8 家具	22	4		26	4.7%
8 ボール等	14	1	15	1.5%	9 ぶらんこ	17	3		20	4.3%
8 すべり台	13	2	15	1.5%	10 壁・塀	14	5		19	3.3%

衝突(236人)					挟まれ(161人)				
	軽症	中等症	計	%		軽症	中等症	計	%
1 ぶらんこ	21		21	8.9%	1 自転車	33		33	20.5%
2 ガラス片	14	1	15	6.4%	2 手動ドア	29	1	30	18.6%
3 家具	12	1	13	5.5%	3 家具	10		10	6.2%
4 柱・電柱	10		10	4.2%	4 自動車のドア	6		6	3.7%
4 壁・塀	7	3	10	4.2%	4 鉄道車両のドア	6		6	3.7%
6 手動ドア	9		9	3.8%	6 エスカレーター	4	1	5	3.1%
7 窓・サッシ	7	1	8	3.4%	6 鉄道車両の戸袋	5		5	3.1%
8 階段	6	1	7	3.0%	8 エレベーター	4		4	2.5%
9 その他の遊具	4	2	6	2.5%	8 自転車の補助イス	4		4	2.5%
9 滑り台	6		6	2.5%	8 窓・サッシ	4		4	2.5%

表 3-18 受傷形態×関連器物×初診時程度 (6~12歳運動による事故 360人)

転倒(147人)					衝突(77人)			
	軽症	中等症	計	%		軽症	計	%
1 その他の運動器具(用具)	7	3	10	6.8%	1 ボール等	10	10	13.0%
2 ボール等	3		3	2.0%	2 ゴールポスト	4	4	5.2%
3 スケート	1	1	2	1.4%	3 鉄棒	4	4	5.2%
4 ゴールポスト		1	1	0.7%	4 フェンス	2	2	2.6%
4 ローラースケート	1		1	0.7%	4 バット	1	1	1.3%
4 一輪車	1		1	0.7%	4 ボール	1	1	1.3%

飛来物・落下物(39人)				墜落・転落(18人)				
	軽症	計	%		軽症	中等症	計	%
1 ボール等	33	33	84.6%	1 その他の運動器具(用具)	3		3	16.7%
2 その他の運動器具(用具)	3	3	7.7%	2 鉄棒		2	2	11.1%
3 テニスラケット	1	1	2.6%	3 動物等	1		1	5.6%

表 3-19 受傷形態×関連器物×初診時程度 (6~12歳水による事故 7人)

遊泳中の溺水(5人)					家庭での溺水(風呂等)(1人)			
	軽症	中等症	計	%		重篤	計	%
1 非該当	2	3	5	100.0%	1 浴槽	1	1	100.0%

不慮の溺水(1人)			
	軽症	計	%
1 浴槽	1	1	100.0%

第7 事故の要因

事故の要因について、事故の概要から受傷原因、事故時の人的環境などの分類からその傾向を考察する。さらに、年齢区分6～12歳を小学校低学年の6～8歳とそれ以外の9～12歳に区分し、その傾向を見る。

1 受傷原因

本人の行為により事故にあったもの及び本人以外の行為により事故にあったものの状況について傾向をみる。

本人の行為により事故にあったものは、0～5歳が5,314人(76.6%)、6～12歳が2,281人(72.4%)となり、0～5歳が4.2ポイント高くなった。本人以外の行為により事故にあったものは、0～5歳が867人(12.5%)、6～12歳が525人(16.7%)となり、6～12歳が4.2ポイント高くなった。

6～12歳をさらに6～8歳、9～12歳でみると、本人の行為により事故にあったものは、6～8歳が1,231人(77.6%)、9～12歳が1,050人(67.2%)と6～8歳が10.4ポイント高くなった。本人以外の行為により事故にあったものは、6～8歳が207人(13.0%)、9～12歳が318人(20.4%)となり、6～12歳が7.4ポイント高くなった。

表3-20 受傷原因×年齢

0～5歳			6～12歳			6～8歳			9～12歳		
受傷原因	計	%	受傷原因	計	%	受傷原因	計	%	受傷原因	計	%
本人の行為	5,314	76.6%	本人の行為	2,281	72.4%	本人の行為	1,231	77.6%	本人の行為	1,050	67.2%
本人以外の行為	867	12.5%	本人以外の行為	525	16.7%	本人以外の行為	207	13.0%	本人以外の行為	318	20.4%
不明	760	10.9%	不明	343	10.9%	不明	149	9.4%	不明	194	12.4%
合計	6,941	100.0%	合計	3,149	100.0%	合計	1,587	100.0%	合計	1,562	100.0%

表3-21 受傷原因別による事例

No	性別	年齢	場所	受傷原因	事故の概要
1	女	2	住宅	本人の行為 (転倒・転落)	自宅1階居室に娘と一緒にいたところ、宅急便が到着したので母親が玄関から出た。その間に、娘がガラス戸を開け、約60cm下のコンクリート上に墜落し負傷した。
2	女	2	住宅	本人の行為 (異物・誤飲)	タバコの吸殻1本が入っているコーヒー缶を飲んだ。
3	男	1	道路	本人の行為 (挟まれ)	自転車のペダルを回して遊んでいて、左指を前ギアとチェーンの間に挟まれた。
4	女	0	住宅	本人以外の行為 (転倒・転落)	母親が息子を抱いて階段を上る際に転落した。
5	女	1	道路	本人以外の行為 (転倒・転落)	自転車のフロントの補助イスに子供を坐らせたまま、自転車を停めて、離れたすきに自転車が転倒し、子供が頭を地面にうった。
6	女	7	公園	本人の行為 (転倒・転落)	公園内のすべり台(高さ約4m)から転落し、左肩を受傷した。
7	男	6	スーパー	本人の行為 (衝突)	兄と追いかっこをしていて、スーパー入口の扉に頭部をぶつけた。
8	女	12	住宅	本人の行為 (その他)	口を大きく開けた際に顎がはずれた。
9	男	11	その他	本人以外の行為 (虫刺され)	雑木林で遊んでいて蜂に刺されたため救急要請した。
10	男	10	公園	本人以外の行為 (落下物・飛来物)	公園内で友人とけんかになり、直径約3cmのコンクリート片を頭にぶつけられ、受傷した。

2 事故時の人的環境

事故にあった時の、保護者が一緒にいた、子供だけだった、などの要因について傾向をみる。

子供のみ	子供のみでいたと考えられる状況で事故にあった
保護者等	保護者等と一緒にいたと考えられる状況で事故にあった
不明	事故概要から読み取れないもの

子供のみでいたと考えられる状況で事故にあった割合は、0～5歳が19人(0.3%)、6～12歳が4人(0.1%)と0～5歳が0.2ポイント高く、保護者等と一緒にいたと考えられる状況で事故にあった割合は、0～5歳が6,293人(90.7%)、6～12歳が2,022人(64.2%)と0～5歳が26.5ポイント高い。

6～8歳、9～12歳の比較では、子供のみでいたと考えられる状況で事故にあった割合は、6～8歳が2人(0.1%)、9～12歳が2人(0.1%)であり、保護者等と一緒にいたと考えられる状況で事故にあった割合は、6～8歳が993人(62.6%)、9～12歳が531人(34.0%)と6～8歳のほうが28.6ポイント高い。

表 3-22 人的環境×年齢

0～5歳			6～12歳			6～8歳			9～12歳		
人的環境	計	%	人的環境	計	%	人的環境	計	%	人的環境	計	%
子供のみ	19	0.3%	子供のみ	4	0.1%	子供のみ	2	0.1%	子供のみ	2	0.1%
保護者等	6,293	90.7%	保護者等	2,022	64.2%	保護者等	993	62.6%	保護者等	1,029	65.9%
不明	629	9.1%	不明	1,123	35.7%	不明	592	37.3%	不明	531	34.0%
合計	6,941	100.0%	合計	3,149	100.0%	合計	1,587	100.0%	合計	1,562	100.0%

表 3-23 人的環境別による事例

No	性別	年齢	場所	人的環境	事故の概要
1	女	2	住宅	子供のみ	娘の昼寝中に母親は外出したため、女兒一人でした。2歳の女兒が粉末消火器を噴射させ、薬剤を体等に浴びた。
2	男	0	住宅	子供のみ	子供にビデオを見せ風呂を清掃中、子供の声があったので見に行ったら、たばこを半分、口の中に入れていた。
3	男	1	住宅	子供のみ	浴室で子供3人に水遊びをさせていた。その場を離れたら泣き叫ぶ声が聞こえたので見に行くと、子供が仰向けに浮いていたため、慌てて引き上げ救急要請した。
4	女	1	住宅	子供のみ	階段の方から娘の泣き声がするのでみていると、娘が階段から転落していた。
5	女	0	道路	子供のみ	路上に自転車をとめ、後部に子供を乗せていたが、荷物を取るため自転車を離れたところ、自転車が倒れ、子供が頭部を受傷した
6	男	8	公園	子供のみ	外から激しい子供の泣き声が聞こえてきたので外に出て行くと、敷地内で男児が倒れていた。「フェンスの上から落ちた、頭が痛い。」と訴えたため、保護者に連絡し、その後救急要請をした。
7	女	11	住宅	子供のみ	自宅居室で物音がしたため行ってみると、子供がテレビの下敷きになり泣いていた。
8	男	2	住宅	保護者等	木製ドアの内側部分に指を入れた際、左中指を挟まれた。
9	男	8	住宅	保護者等	自宅居室内ソファから転落、家具の角に頭をぶつけて出血した。
10	男	10	小学校	保護者等	体育の授業で雲梯をしていたところ、転落し顔面を受傷した。

3 人的要因

本人や保護者の注意力不足、他人の行為により事故にあったなどの要因について傾向をみる。

保護者等	保護者、教員等の注意力不足等により、事故が発生したと考えられるもの
本人	本人の注意力不足等により、事故が発生したと考えられるもの
相手方	本人以外の者の行為により、事故が発生したと考えられるもの
動物等	動物、昆虫により、事故が発生したと考えられるもの
不明	事故概要から読み取れないもの
なし	人的要因がないもの

※ 0～5歳の場合は、子供の注意不足より保護者等の注意不足を主体とした。

保護者等の割合は、0～5歳が6,176人(89.0%)、6～12歳が1,242人(3.9%)と0～5歳が85.1ポイント高い。本人の割合は、0～5歳が1人(0.01%)、6～12歳が2,401人(76.2%)と6～12歳が76.1ポイント以上高い。相手方の割合は、0～5歳が17人(0.2%)、6～12歳が158人(5.0%)と6～12歳が4.8ポイント高い。動物等の割合は、0～5歳が31人(0.4%)、6～12歳が47人(1.5%)と6～12歳が1.1ポイント高くなった。

6～8歳、9～12歳の比較では、保護者等の割合は、6～8歳が68人(4.3%)、9～12歳が56人(3.6%)と6～8歳が0.7ポイント高い。本人の割合は、6～8歳が1,242人(78.3%)、9～12歳が1,159人(74.2%)と6～8歳が4.1ポイント高い。相手方の割合は、6～8歳が63人(4.0%)、9～12歳が95人(6.1%)と9～12歳が2.1ポイント高い。動物等の割合は、6～8歳が22人(1.4%)、9～12歳が25人(1.6%)と9～12歳が0.2ポイント高い。

表 3-24 人的要因×年齢

0～5歳			6～12歳			6～8歳			9～12歳		
人的要因	計	%	人的要因	計	%	人的要因	計	%	人的要因	計	%
保護者等	6,176	89.0%	保護者等	124	3.9%	保護者等	68	4.3%	保護者等	56	3.6%
本人	1	0.01%	本人	2,401	76.2%	本人	1,242	78.3%	本人	1,159	74.2%
相手方	17	0.2%	相手方	158	5.0%	相手方	63	4.0%	相手方	95	6.1%
動物等	31	0.4%	動物等	47	1.5%	動物等	22	1.4%	動物等	25	1.6%
不明	703	10.1%	不明	349	11.1%	不明	166	10.5%	不明	183	11.7%
なし	13	0.2%	なし	70	2.2%	なし	26	1.6%	なし	44	2.8%
合計	6,941	100.0%	合計	3,149	100.0%	合計	1,587	100.0%	合計	1,562	100.0%

表 3-25 人的要因別による事例

No	性別	年齢	場所	人的要因	事故の概要
1	女	2	住宅	保護者等	玩具の車で遊んでいた子供が目を離した間に、直径1cmの車のタイヤを飲み込んでしまった。
2	男	6	道路	保護者等	自転車の後ろに息子を乗せて走行中、息子が左足を車輪に挟まれて受傷した。
3	男	5	住宅	本人	母親にしかられて、ガラス戸を蹴ったところ、左足親指を切った。
4	男	8	公園	本人	ぶらんこでジャンプした際に鉄棒に腹をぶつけた。
5	女	2	住宅	相手方	自宅で長男がクローゼットの戸を閉めた際、妹が手を出していたため、挟んでしまい、左手の指を受傷した。
6	男	11	公園	相手方	本日15時頃公園のぶらんこに乗って遊んでいる最中、友人が揺らしたとなりのぶらんこに頭を打ち、受傷した。
7	男	7	道路	動物等	子供が道路歩行中に蜂に顔・腕を刺された。

4 心理的要因

本人や保護者の不注意、知識不足、作為などの要因について傾向をみる。

不注意	単純な不注意と考えられるもの
作為	意図的に行ったと考えられるもの
好奇心・冒険心	好奇心・冒険心と考えられるもの
不明	事故概要から読み取れないもの
なし	人的要因がないもの

不注意は、0～5歳が6,161人(88.8%)、6～12歳が2,513人(79.8%)と0～5歳が9.0%高くなった。作為は、0～5歳が3人(0.04%)、6～12歳が51人(1.6%)と6～12歳のほうが高い。好奇心・冒険心は、6～12歳が62人(2.0%)となった。

6～8歳、9～12歳の比較では、不注意の割合は、6～8歳が1,313人(82.7%)、9～12歳が1,200人(76.8%)と6～8歳が5.9%高くなった。作為は、6～8歳が19人(1.2%)、9～12歳が32人(2.0%)と9～12歳が0.8%高くなった。好奇心・冒険心は、6～8歳が31人(2.0%)、9～12歳が31人(2.0%)となった。

表 3-26 心理的要因×年齢

0～5歳			6～12歳			6～8歳			9～12歳		
心理的要因	計	%	心理的要因	計	%	心理的要因	計	%	心理的要因	計	%
不注意	6,161	88.8%	不注意	2,513	79.8%	不注意	1,313	82.7%	不注意	1,200	76.8%
作為	3	0.04%	作為	51	1.6%	作為	19	1.2%	作為	32	2.0%
好奇心・冒険心			好奇心・冒険心	62	2.0%	好奇心・冒険心	31	2.0%	好奇心・冒険心	31	2.0%
不明	744	10.7%	不明	383	12.2%	不明	172	10.8%	不明	211	13.5%
なし	33	0.5%	なし	140	4.4%	なし	52	3.3%	なし	88	5.6%
合計	6,941	100.0%	合計	3,149	100.0%	合計	1,587	100.0%	合計	1,562	100.0%

表 3-27 心理的要因別による事例

No	性別	年齢	場所	心理的要因	事故の概要
1	女	1	住宅	不注意	子供を抱き上げようとした際、落下させた。
2	女	7	公園	不注意	公園内の鉄棒で前回りをして遊んでいたところ、転落し顔面を受傷した。
3	男	11	公園	不注意	友達と鬼ごっこをしていて、高さ3.5mの木製遊具から転落した。
4	男	5	住宅	作為	5歳の長男が、母親にしかられて、ガラス戸を蹴ったところ、左足親指を切った。
5	男	8	公園	作為	すべり台の手摺にぶら下がっていたところ、友達に足を引っぱられ、高さ1.5mから転落した。
6	男	11	小学校	作為	同級生と口論となり、かっとして、窓ガラスを素手で叩いたところガラスが割れて右手を受傷した。
7	男	6	自宅	好奇心・冒険心	玩具のぜんまいをコンセントにさしたところ、燃えて右手を火傷した。
8	男	11	公園	好奇心・冒険心	公園内において木登りをして、約5mの高さにある枝にぶら下がって遊んでいたところ、ぶら下がっていた木の枝が折れ、地面へ墜落した。

5 物的要因

器具の不備、環境の不備、取扱い不適などの要因について傾向をみる。

器具の不備	器具本体の不備欠陥により、事故が発生したと思われるもの
器具の保守管理の不備	器具本体の故障、劣化により、事故が発生したと思われるもの
環境の不備	設置場所等環境の不備及び管理不足により、事故が発生したと思われるもの
取扱不適	器具の取扱い不適により、事故が発生したと思われるもの
不明	事故概要から読み取れないもの
なし	物的要因がないもの

器具の不備は、0～5歳が1人(0.01%)、器具の保守管理の不備は0～5歳が1人(0.01%)、6～12歳が2人(0.1%)、環境の不備は0～5歳が57人(0.8%)、6～12歳が29人(0.9%)となっており、取扱不適では、0～5歳が1人(0.01%)、6～12歳が11人(0.3%)と6～12歳が0.3ポイント以上高くなっている。物的要因が無いものは、0～5歳が6,230人(89.8%)、6～12歳が2,804人(89.0%)といずれも高い割合を示した。

6～8歳、9～12歳の比較では、器具の保守管理の不備は6～8歳のみで2人(0.1%)、環境の不備は6～8歳が15人(0.9%)、9～12歳が14人(0.9%)、取扱不適は、6～8歳が5人(0.3%)、9～12歳が6人(0.4%)。物的要因がないものについては6～8歳が1,422人(89.6%)、9～12歳が1,382人(87.1%)といずれも高い割合を示した。

表 3-28 物的要因×年齢

0～5歳			6～12歳			6～8歳			9～12歳		
物的要因	計	%	物的要因	計	%	物的要因	計	%	物的要因	計	%
器具の不備	1	0.01%	器具の不備			器具の不備			器具の不備		
器具の保守管理の不備	1	0.01%	器具の保守管理の不備	2	0.1%	器具の保守管理の不備	2	0.1%	器具の保守管理の不備		
環境の不備	57	0.8%	環境の不備	29	0.9%	環境の不備	15	0.9%	環境の不備	14	0.9%
取扱不適	1	0.01%	取扱不適	11	0.3%	取扱不適	5	0.3%	取扱不適	6	0.4%
不明	651	9.4%	不明	303	9.6%	不明	143	9.0%	不明	160	10.1%
なし	6,230	89.8%	なし	2,804	89.0%	なし	1,422	89.6%	なし	1,382	87.1%
合計	6,941	100.0%	合計	3,149	100.0%	合計	1,587	100.0%	合計	1,562	98.4%

表 3-29 物的要因別による事例（0～5歳 不明、なしを除く）

No	性別	年齢	場所	物的要因	事故の概要
1	女	4	道路	器具の不備	バスの最後部に坐っていた親子に、後部側から噴出してきた熱湯（ラジエーター液の様相）がかかり受傷した。
2	男	1	公園	器具の保守管理の不備	公園の柵につかまって立ち上がろうとした際、柵に付いていたペンキがめくれていたため、そこに接触、受傷した。
3	男	1	住宅	環境の不備	トイレに行くため子供から目を離し、トイレから戻ると子供がテーブルの上に置いていたタバコを食べていた。
4	男	1	住宅	環境の不備	急に両手が痛いと感じ、周りを見ると、穴のあいた壁から剥き出しの屋内配線（先端部分）があったので感電したと思い、救急要請した。
5	女	1	住宅	環境の不備	自宅居室でカミソリをいたずらして右手指を切った。
6	男	1	住宅	環境の不備	ホットケーキを焼きテーブルの上に加熱台（コンセントから抜いて間もない状態）を置いていたところ、男児が両手をつき、やけどした。
7	女	0	住宅	環境の不備	メリーゴーランドがベッドの柵からはずれ、子供の腹部にあたり受傷した。
8	男	0	マーケット等	環境の不備	店内で急に商品が倒れてきてベビーカーが転倒し、子供が受傷した。
9	男	3	遊園地	環境の不備	遊園地のアトラクションで業務用送風機を使用していたところ、来園していた男児が送風機を囲っていた鉄柵内に入り、送風機の送風口に手を入れて受傷した。
10	女	1	駅	取扱不適	ベビーカーで駅のエスカレーターを降りる際、上から何者かの旅行鞆が落ちてきて受傷した。

表 3-30 物的要因別による事例（6～12歳 不明、なしを除く）

No	性別	年齢	場所	物的要因	事故の概要
1	男	6	住宅	器具の保守管理の不備	階段で遊んでいたところ、飛び出していたポルトに頭をぶつけ受傷した。
2	男	6	住宅	環境の不備	祖母の家の2階で友人と窓柵に寄りかかっていたところ、窓柵が壊れ歩道上に墜落した。
3	男	10	農地	環境の不備	下校途中に畑の中の有刺鉄線に右足がからみ受傷した。
4	男	6	住宅	環境の不備	自宅の木製二段ベッドで寝ていたところ、隙間に足を挟まれ取れなくなった。
5	男	12	住宅	環境の不備	自宅2階の廊下で、天井の戸が開いているのに気付かず、頭部をぶつけ受傷した。
6	女	12	住宅	環境の不備	自宅マンション洗面所でタオルを洗っていたところ、ひびが入っていた洗面台が倒れ、左手関節部を受傷した。
7	女	7	小学校	環境の不備	教室内で、高さ2m位の場所に固定してあったテレビが倒れてきて、児童の顔面にぶつかり、前額部等を打撲した。
8	男	9	仕事場	環境の不備	何台かの重機により、丘陵地帯の斜面で堆肥作りをしている作業場で、父親が少し離れた場所で重機の修理をして目を離している間に、一緒に連れてきた9歳の長男がパワーショベルを操作し、パワーショベルごと約15m斜面を転落した。
9	男	11	遊技場	環境の不備	スピーカーの配線に足がからみ、スピーカーが落下し、受傷した。
10	男	7	幼稚園	取扱不適	息子が幼稚園内において、ネオンステックの発光液が両目に入り、痛み及び熱さを訴えた。
11	男	11	住宅	取扱不適	自宅居室にて兄のエアガンで遊んでいたところ、エアガンのスライド部分に右手親指を入れトリガーを引いたため、スライド部分の穴から指がとれなくなった。
12	男	8	川	取扱不適	キャンプ場近くの多摩川で、兄が釣竿を振り込んだ際、そばにいた弟（8歳）の後頭部にルアーの針が刺さり、受傷した。
13	女	6	道路	取扱不適	父親と花火をしていて、ふり回した花火の火の粉が目に入った。
14	女	11	住宅	取扱不適	自宅で食用ラップの箱でたたいたところ、切断刃のついている方だったため、叩かれた女児が左手を切ってしまった。
15	男	12	小学校	取扱不適	中学校2階、理科実験室で実験中、水酸化ナトリウム10%溶液が飛散し、受傷した。

6 年齢、人的要因、心理的要因及び発生場所

(1) 0～5歳

保護者等の不注意と考えられるものが6,133人(88.4%)と高い割合を示したことから、保護者等の不注意により事故に遭っている傾向が見られる。不注意で動物等に危害を被ったと考えられるものは、16人(0.2%)、相手方の不注意と考えられるものは、10人(0.1%)となり、本人の不注意と考えられるものは無かった。また、主な発生場所を見ると、共同住宅2,932人(42.2%)、一般住宅1,793人(25.8%)、一般道路481人(6.9%)、公園・広場等404人(5.8%)、デパート等216人(3.1%)となっている。

表 3-31 人的要因×心理的要因(0～5歳)

		心理的要因				合計	
		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明		なし
人的 要因	保護者等	6,133	1		41	1	6,176
	%	88.4%	0.01%		0.6%	0.01%	89.0%
	本人		1				1
	%		0.01%				0.01%
	相手方	10	1		4	2	17
	%	0.1%	0.01%		0.1%	0.03%	0.2%
	動物等	16				15	31
	%	0.2%				0.2%	0.4%
	不明	2			699	2	703
	%	0.03%			10.1%	0.03%	10.1%
なし					13	13	
%					0.2%	0.2%	
合計	6,161	3		744	33	6,941	

表 3-32 発生場所×人的要因×心理的要因 (0~5 歳)

		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明	なし	合計	%
共同住宅 (42.2%)	保護者等	2,582	1		19		2,602	88.7%
	本人		1				1	0.03%
	相手方	5					5	0.2%
	動物等	4				3	7	0.2%
	不明				310	1	311	10.6%
	なし					6	6	0.2%
	合計	2,591	2		329	10	2,932	100.0%
	%	88.4%	0.1%		11.2%	0.3%	100.0%	
一般住宅 (25.8%)	保護者等	1,570			9		1,579	88.1%
	本人							
	相手方	1			1		2	0.1%
	動物等	6				4	10	0.6%
	不明				199		199	11.1%
	なし					3	3	0.2%
	合計	1,577			209	7	1,793	100.0%
	%	88.0%			11.7%	0.4%	100.0%	
一般道路 (6.9%)	保護者等	425			5	1	431	89.6%
	本人							
	相手方				1	1	2	0.4%
	動物等	3					3	0.6%
	不明	1			43		44	9.1%
	なし					1	1	0.2%
	合計	429			49	3	481	100.0%
	%	89.2%			10.2%	0.6%	100.0%	
公園・広場等 (6.8%)	保護者等	362			2		364	90.1%
	本人							
	相手方							
	動物等	2				3	5	1.2%
	不明				34	1	35	8.7%
	なし							
	合計	364			36	4	404	100.0%
	%	90.1%			8.9%	1.0%	100.0%	
デパート等 (3.1%)	保護者等	197					197	91.2%
	本人							
	相手方							
	動物等							
	不明				18		18	8.3%
	なし					1	1	0.5%
	合計	197			18	1	216	100.0%
	%	91.2%			8.3%	0.5%	100.0%	

(2) 6~12歳

本人の不注意と考えられるものが2,298人(73.0%)と高い割合を示し、保護者等の不注意と考えられるもの及び相手方の不注意と考えられるものが100人(3.2%)、本人の好奇心・冒険心と考えられるものが62人(2.0%)、相手方の作為と考えられるものが31人(1.0%)、本人の作為と考えられるものが16人(0.5%)、不注意で動物等に危害を被ったと考えられるものが7人(0.2%)となっている。また、主な発生場所を見ると、小学校699人(22.2%)、公園・広場等562人(17.8%)、共同住宅518人(16.4%)、一般住宅379人(12.0%)、一般道路267人(8.5%)、デパート等227人(7.2%)となっている。

表 3-33 人的要因×心理的要因（6～12歳）

		心理的要因					合計
		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明	なし	
人的要因	保護者等	100	3		7	14	124
	%	3.2%	0.1%		0.2%	0.4%	3.9%
	本人	2,298	16	62	16	9	2,401
	%	73.0%	0.5%	2.0%	0.5%	0.3%	76.2%
	相手方	100	31		15	12	158
	%	3.2%	1.0%		0.5%	0.4%	5.0%
	動物等	7	1		3	36	47
	%	0.2%	0.03%		0.1%	1.1%	1.5%
	不明	7			341	1	349
	%	0.2%			10.8%	0.03%	11.1%
なし	1			1	68	70	
%	0.03%			0.03%	2.2%	2.2%	
合計	2,513	51	62	383	140	3,149	

表 3-34 発生場所×人的要因×心理的要因（6～12歳）

		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明	なし	合計	%
小学校 (22.2%)	保護者等	4			4		8	1.1%
	本人	533	3	2	1	3	542	77.5%
	相手方	29	8		3	3	43	6.2%
	動物等					3	3	0.4%
	不明				74		74	10.6%
	なし				1	28	29	4.1%
	合計	566	11	2	83	37	699	100.0%
%	81.0%	1.6%	0.3%	11.9%	5.3%	100.0%		
公園・広場等 (7.8%)	保護者等	3					3	0.5%
	本人	466	1	29		1	497	88.4%
	相手方	13	3		1		17	3.0%
	動物等					2	2	0.4%
	不明				38	1	39	6.9%
	なし	1				3	4	0.7%
	合計	483	4	29	39	7	562	100.0%
%	85.9%	0.7%	5.2%	6.9%	1.2%	100.0%		
共同住宅 (16.4%)	保護者等	34	2		1		37	7.1%
	本人	347	5	15	5	3	375	72.4%
	相手方	10	9		2	2	23	4.4%
	動物等	3			2	5	10	1.9%
	不明	2			61		63	12.2%
	なし					10	10	1.9%
	合計	396	16	15	71	20	518	100.0%
%	76.4%	3.1%	2.9%	13.7%	3.9%	100.0%		
一般住宅 (12.0%)	保護者等	27			1	1	29	7.7%
	本人	251	5	8	4		268	70.7%
	相手方	11	5			2	18	4.7%
	動物等	1	1			4	6	1.6%
	不明				51		51	13.5%
	なし					7	7	1.8%
	合計	290	11	8	56	14	379	100.0%
%	76.5%	2.9%	2.1%	14.8%	3.7%	100.0%		
一般道路 (8.5%)	保護者等	18					18	6.7%
	本人	191	1	4	1		197	73.8%
	相手方	7	1			1	9	3.4%
	動物等					9	9	3.4%
	不明	1			30		31	11.6%
	なし					3	3	1.1%
	合計	217	2	4	31	13	267	100.0%
%	81.3%	0.7%	1.5%	11.6%	4.9%	100.0%		
運動場等 (7.2%)	保護者等				1	13	14	6.2%
	本人	145		1	2	1	149	65.6%
	相手方	15			3	4	22	9.7%
	動物等					5	5	2.2%
	不明				27		27	11.9%
	なし					10	10	4.4%
	合計	160		1	33	33	227	100.0%
%	70.5%		0.4%	14.5%	14.5%	100.0%		

(3) 6～8歳及び9～12歳

6～8歳は、本人の不注意と考えられるものが1,199人(75.6%)と高い割合を示し、保護者等の不注意と考えられるものが62人(3.9%)、相手方の不注意と考えられるものが41人(2.6%)、本人の好奇心・冒険心と考えられるものが31人(2.0%)、相手方の作為と考えられるものが12人(0.8%)、本人の作為と考えられるものが6人(0.4%)、不注意で動物等に危害を被ったと考えられるものが4人(0.3%)となった。また、主な発生場所を見ると、共同住宅301人(19.0%)、公園・広場等289人(18.2%)、小学校237人(14.9%)、一般住宅221人(13.9%)、一般道路173人(10.9%)、運動場等63人(4.0%)となっている。

9～12歳は、本人の不注意と考えられるものが1,099人(70.4%)と高い割合を示し、相手方の不注意と考えられるものが59人(3.8%)、保護者等の不注意と考えられるものが38人(2.4%)、本人の好奇心・冒険心と考えられるものが31人(2.0%)、相手方の作為と考えられるものが19人(1.2%)、本人の作為と考えられるものが10人(0.6%)、不注意で動物等に危害を被ったと考えられるものが3人(0.2%)となった。また、主な発生場所を見ると、小学校462人(29.6%)、公園・広場等273人(17.5%)、共同住宅217人(13.9%)、運動場等164人(10.5%)、一般住宅158人(10.1%)、一般道路94人(6.0%)となっている。

表 3-35 人的要因×心理的要因 (6～8歳)

		心理的要因					合計
		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明	なし	
人的 要因	保護者等	62	1		2	3	68
	%	3.9%	0.1%		0.1%	0.2%	4.3%
	本人	1,199	6	31	5	1	1,242
	%	75.6%	0.4%	2.0%	0.3%	0.1%	78.3%
	相手方	41	12		4	6	63
	%	2.6%	0.8%		0.3%	0.4%	4.0%
	動物等	4			2	16	22
	%	0.3%			0.1%	1.0%	1.4%
	不明	6			159	1	166
	%	0.4%			10.0%	0.1%	10.5%
なし	1				25	26	
%	0.1%				1.6%	1.6%	
合計	1,313	19	31	172	52	1,587	

表 3-36 発生場所×人的要因×心理的要因（6～8歳）

		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明	なし	合計	%
共同住宅 (19.0%)	保護者等	18					18	6.0%
	本人	215	3	9	2	1	230	76.4%
	相手方	5	3			1	9	3.0%
	動物等	2			1	2	5	1.7%
	不明	1			33		34	11.3%
	なし					5	5	1.7%
	合計	241	6	9	36	9	301	100.0%
%	80.1%	2.0%	3.0%	12.0%	3.0%			
公園・広場等 (18.2%)	保護者等	2					2	0.7%
	本人	248		11			259	89.6%
	相手方	3	2				5	1.7%
	動物等					1	1	0.3%
	不明				18	1	19	6.6%
	なし	1				2	3	1.0%
	合計	254	2	11	18	4	289	100.0%
%	87.9%	0.7%	3.8%	6.2%	1.4%			
小学校 (14.9%)	保護者等				2		2	0.8%
	本人	185					185	78.1%
	相手方	8	2			2	12	5.1%
	動物等					1	1	0.4%
	不明				29		29	12.2%
	なし					8	8	3.4%
	合計	193	2		31	11	237	100.0%
%	81.4%	0.8%		13.1%	4.6%			
一般住宅 (13.9%)	保護者等	20				1	21	9.5%
	本人	153	2	7			162	73.3%
	相手方	6	3			1	10	4.5%
	動物等					1	1	0.5%
	不明				23		23	10.4%
	なし					4	4	1.8%
	合計	179	5	7	23	7	221	100.0%
%	81.0%	2.3%	3.2%	10.4%	3.2%			
一般道路 (10.9%)	保護者等	13					13	7.5%
	本人	130		3			133	76.9%
	相手方	4				1	5	2.9%
	動物等					4	4	2.3%
	不明	1			15		16	9.2%
	なし					2	2	1.2%
	合計	148		3	15	7	173	100.0%
%	85.5%		1.7%	8.7%	4.0%			
運動場等 (4.0%)	保護者等					2	2	3.2%
	本人	43			1		44	69.8%
	相手方	5			2	1	8	12.7%
	動物等					1	1	1.6%
	不明				8		8	12.7%
	なし							
	合計	48			11	4	63	100.0%
%	76.2%			17.5%	6.3%			

表 3-37 人的要因×心理的要因（9～12歳）

		心理的要因					
		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明	なし	合計
人的要因	保護者等	38	2		5	11	56
	%	2.4%	0.1%		0.3%	0.7%	3.6%
	本人	1,099	10	31	11	8	1,159
	%	70.4%	0.6%	2.0%	0.7%	0.5%	74.2%
	相手方	59	19		11	6	95
	%	3.8%	1.2%		0.7%	0.4%	6.1%
	動物等	3	1		1	20	25
	%	0.2%	0.1%		0.1%	1.3%	1.6%
	不明	1			182		183
	%	0.1%			11.7%		11.7%
なし				1	43	44	
%				0.1%	2.8%	2.8%	
合計	1,200	32	31	211	88	1,562	

表 3-38 発生場所×人的要因×心理的要因 (9~12 歳)

		不注意	作為	好奇心・冒険心	不明	なし	合計	%
小学校 (29.6%)	保護者等	4			2		6	1.3%
	本人	348	3	2	1	3	357	77.3%
	相手方	21	6		3	1	31	6.7%
	動物等					2	2	0.4%
	不明				45		45	9.7%
	なし				1	20	21	4.5%
	合計	373	9	2	52	26	462	100.0%
%	80.7%	1.9%	0.4%	11.3%	5.6%	100.0%		
公園・広場等 (7.5%)	保護者等	1					1	0.4%
	本人	218	1	18		1	238	87.2%
	相手方	10	1		1		12	4.4%
	動物等					1	1	0.4%
	不明				20		20	7.3%
	なし					1	1	0.4%
	合計	229	2	18	21	3	273	100.0%
%	83.9%	0.7%	6.6%	7.7%	1.1%	100.0%		
共同住宅 (13.9%)	保護者等	16	2		1		19	8.8%
	本人	132	2	6	3	2	145	66.8%
	相手方	5	6		2	1	14	6.5%
	動物等	1			1	3	5	2.3%
	不明	1			28		29	13.4%
	なし					5	5	2.3%
	合計	155	10	6	35	11	217	100.0%
%	71.4%	4.6%	2.8%	16.1%	5.1%	100.0%		
運動場等 (10.5%)	保護者等				1	11	12	7.3%
	本人	102		1	1	1	105	64.0%
	相手方	10			1	3	14	8.5%
	動物等					4	4	2.4%
	不明				19		19	11.6%
	なし					10	10	6.1%
	合計	112		1	22	29	164	100.0%
%	68.3%		0.6%	13.4%	17.7%	100.0%		
一般住宅 (10.1%)	保護者等	7			1		8	5.1%
	本人	98	3	1	4		106	67.1%
	相手方	5	2			1	8	5.1%
	動物等	1	1			3	5	3.2%
	不明				28		28	17.7%
	なし					3	3	1.9%
	合計	111	6	1	33	7	158	100.0%
%	70.3%	3.8%	0.6%	20.9%	4.4%	100.0%		
一般道路 (6.0%)	保護者等	5					5	5.3%
	本人	61	1	1	1		64	68.1%
	相手方	3	1				4	4.3%
	動物等					5	5	5.3%
	不明				15		15	16.0%
	なし					1	1	1.1%
	合計	69	2	1	16	6	94	100.0%
%	73.4%	2.1%	1.1%	17.0%	6.4%	100.0%		

表 3-39 人的・心理的要因別による事例

No	性別	年齢	場所	【要因】人的/心理的	事故の概要
1	女	3	道路	保護者 / 不注意	自転車の前カゴに子供を乗せたまま自転車から離れたため、自転車が倒れ、乗っていた女兒が左こめかみを受傷した。
2	男	2	住宅	保護者 / 不注意	浴室内で母親が洗髪中に、息子が浴槽内で溺水した。
3	男	3	住宅	保護者/好奇心・冒険心	ミニカーのタイヤ(4mm)が左の鼻の穴に入るとれなくなりました。
4	女	8	公園	本人 / 不注意	公園内のぶらんこを2人乗り(受傷者は座っていた)していたところ、手がすべり、ぶらんこ周辺に設けられた鉄柵に後頭部をぶつけたもの。
5	男	7	公園	本人/好奇心・冒険心	すべり台ガード外側にぶら下がっていた所、誤って転落し、腰背部を打撲した。
6	女	10	住宅	相手方 / 作為	食事後、姉と口論となった際、姉の投げたコップがひたいに当たり受傷した。

第8 事故事例

1 0～5歳

(1) 一般負傷 6,900 (人)

受傷形態	関連器物	事故概要
転倒 2,519 人	非該当 925人 (36.7%)	公園内を歩行中、転倒し頭部を受傷した。(1男、軽症) スーパーの店内で走り回っていて転倒し、受傷した。(2男、軽症)
	家具 461人 (18.3%)	居室内で小走りし、じゅうたんにつまずき転倒した際、テーブルの角に頭をぶつけ受傷した。(1男、軽症)
	階段 218人 (8.7%)	マンション1階屋内階段で、階段を上る時に足を踏み外し受傷した。(3男、軽症)
	自転車補助イス 121人 (4.8%)	路上に停車中の自転車の補助イスから立ち上がった際、自転車ごと転倒し、受傷した。(1男、軽症)
	自転車 63人 (2.5%)	自転車の前カゴに女兒を乗せたまま保護者が自転車から離れたため、自転車が倒れ、乗っていた女兒が左こめかみを受傷した。 (3女、軽症)
	ベビーカー 49人 (1.9%)	母親とスーパーに買い物に来ていて乗っていたベビーカーの上に立ち上がったところ、バランスを崩し、床に転倒した。 (1女、軽症)
	その他の玩具 46人 (1.8%)	マンション5階自宅ベランダで子供が遊具の自動車から落ち、頭を受傷した。(2男、軽症)
墜落・転落 1,303 人	家具 345人 (26.5%)	自宅の椅子の上で立ち上がって遊んでいたところ、転落し、受傷した。(4男、中等症)
	階段 284人 (21.8%)	自宅の階段で、2階から1階へ転落し、頭部を打撲した。 (1女、軽症)
	非該当 189人 (14.5%)	高さ約2mのロフトから転落した。(5男、軽症)
	すべり台 63人 (4.8%)	すべり台に乗って遊んでいたところ、誤って約1mの高さから地面に転落し、頭部を受傷した。(2女、軽症)
	ベビーカー 46人 (3.5%)	子供が外出先路上でベビーカーから転落し、頭部を受傷した。 (1男、軽症)

<p>墜落・転落 1,303 人</p>	<p>自転車補助イス 36人 (2.8%)</p>	<p>自転車の前部の補助イスに娘をのせたまま自転車を止め、離れた際に自転車が倒れた。(3女、中等症)</p>
<p>誤飲・異物 953人</p>	<p>タバコ 164人 (17.2%)</p>	<p>自宅で水の入った灰皿で遊んでいたところ、タバコを食べてしまったようなので救急要請した。(0男、軽症)</p>
	<p>異物 132人 (13.9%)</p>	<p>子供が携帯電話を舐めていた時、眼を離したら、息を詰まらせたような声をだした。振り返ったら呼吸が10～20秒止まった感じがしたため、何かを飲み込んだと思い救急要請した。 (0女、軽症)</p>
	<p>その他の玩具 73人 (7.7%)</p>	<p>自宅居室内でプラスチック製のブロックを飲み込んだため、母親が救急要請した。 (1女、軽症)</p>
	<p>魚等の骨 58人 (6.1%)</p>	<p>夕食に魚を食べたところ、骨が咽頭部に刺さった。(3女、軽症)</p>
	<p>薬剤等によるもの 55人 (5.8%)</p>	<p>本日、18時25分頃自宅1階居室内で、子供が誤って乾燥剤(シリカゲル)を飲んだため心配になり救急要請した。 (0女、軽症)</p>
<p>衝突 360人</p>	<p>家具 114人 (31.7%)</p>	<p>マンションの自宅居室内で走り回っている際に、家具に顔面をぶつけ受傷した。(3男、軽症)</p>
	<p>非該当 70人 (19.4%)</p>	<p>自然文化園内にて、走ってきた子供に正面から衝突され、後方に転倒し、受傷した。(2女、軽症)</p>
	<p>ぶらんこ 24人 (6.7%)</p>	<p>保育園隣の公園で、友人の乗ったぶらんこに近づき衝突、頭部を受傷した。(2男、軽症)</p>
	<p>窓・サッシ 18人 (5.0%)</p>	<p>飲食店でガラス戸にぶつかり受傷した。 (5男、軽症)</p>
	<p>壁・塀 15人 (4.2%)</p>	<p>マンション廊下で遊んでいた際、転倒してエレベーター横の壁に頭部をぶつけ、受傷した。(2男、軽症)</p>
	<p>手動ドア 13人 (3.6%)</p>	<p>居室内で走っていたところ、ドアノブに頭をぶつけた。 (5男、軽症)</p>
<p>挟まれ 424人</p>	<p>手動ドア 91人 (21.5%)</p>	<p>店舗の出入口ドアで右手の指を挟み受傷した。(2男、軽症)</p>
	<p>自転車 65人 (15.3%)</p>	<p>子供を自転車の後ろに乗せていた際、子供の左踵が自転車の後輪に挟まれ受傷した。(5男、軽症)</p>

挟まれ 424人	エレベーター 37人 (8.7%)	デパートエレベーターの戸袋に手を挟まれ受傷。(3男、軽症)
	家具 37人 (8.7%)	自宅で長男がクローゼットの戸を閉めた際、妹が手を出していたため、挟んでしまい左手の指を受傷した。(2女、軽症)
	鉄道車両の戸袋 30人 (7.1%)	電車のドアが開いた時に、娘の左腕がドアとドアの戸袋に挟まれ受傷した。(4女、軽症)
	非該当 16人 (3.8%)	手を洗おうとして、足を滑らせ転倒、排水管と洗面台の間に首が挟まった。(5女、軽症)
	鉄道車両のドア 15人 (3.5%)	乳母車に乗った状態で乗車していて、駅で扉が開いた際、左足を車体と扉の間に引き込まれ受傷した。(0男、軽症)

(2) 運動による事故 9 (人)

受傷形態	関連器物	事故概要
転倒 3人	スケート 2人 (66.7%)	アイススケート場で滑走中に前向きに転倒した際、左ももを受傷した。(5男、軽症)
衝突 2人	その他の運動器具 (用具) 1人 (50.0%)	子供が障害物の跳び箱を乗り越えた際、誤って転倒し、顔面を受傷した。(5男、軽症)
	非該当 1人	
飛来物・ 落下物 2人	ボール等 1人 (50.0%)	球場において野球の試合を観戦中、ファールボールが後頭部にあたり、受傷した。(5女、軽症)
	非該当 1人	
その他 1人	非該当 1人 (100.0%)	体操教室にて、後ろでんぐり返りをしていた際、首を受傷した。(5男、軽症)
挟まれ	1人	

(3) 水による事故 32 (人)

受傷形態	関連器物	事故概要
家庭内での溺水 24人	浴槽 19人 (79.2%)	父親が浴槽内に水没しているのを発見、水から引き揚げたところ、意識呼吸がなく全身チアノーゼであった。母親が人工呼吸を1回実施したところ意識回復したが、心配なので救急要請した。 (3男、中等症)
	その他の風呂用品 2人 (8.3%)	浴室にてベビーバスで長女を入浴させていたところ、目を離した隙にぬるま湯に沈んでしまった。(0女、軽症)
	清掃用具 1人 (4.2%)	ベランダでエアコン室外機からの排水をためているバケツに頭部を突っ込み、意識を失っているのを父親が発見した。 (0男、重症)
	その他の玩具 1人 (4.2%)	子供を浮き輪に入れて入浴中、浮き輪から落ちて沈んだため、救急要請した。(0男、中等症)
	非該当 1人	
不慮の溺水 3人	非該当 2人 (66.7%)	1歳の子供が庭の池に落ち、溺れていた。(1男、重篤)
	浴槽 1人	
遊泳中の溺水 3人	非該当 3人 (100.0%)	スイミングプールにおいて、意識がなくプールの水面に浮いているのを母親が発見し、救急要請した。(4男、軽症)
その他 2人	浴槽 1人 (50.0%)	乳児が浴槽内で溺れていた。(0女、重症)
	非該当 1人	

2 6～12歳

(1) 一般負傷 2,782 (人)

受傷形態	関連器物	事故概要
転倒 984人	非該当 496人 (50.4%)	小学校内で他の生徒とふざけあって転倒し、頭部を受傷したため救急要請した。(10男、軽症)
	階段 79人 (8.0%)	小学校校舎内の階段から転落し、受傷した。 (11男、軽症)
	遊具 61人 (6.2%)	公園内のすべり台を逆に上がっていたところ、靴が脱げ転倒し、そのまま逆にすべり落ち、右足の指を受傷した。(6女、軽症)

転倒 984人	家具 56人 (5.7%)	自宅で友人と遊んでいる時に転倒し、机の角で頭部を受傷した。 (6男、軽症)
	自転車 29人 (2.9%)	公園内で、自転車走行中、誤って転倒し、腹部を受傷した。 (6男、軽症)
墜落・転落 600人	遊具 234人 (39.0%)	小学校のジャングルジムから墜落し、後頭部をすりむいた。 (6男、軽症)
	非該当 77人 (12.8%)	校舎入口横の水飲み場から入口の日差しに飛びうつろうとしたが、墜落し受傷した。 (12男、中等症)
	階段 62人 (10.3%)	アパートの外階段を降りる際に、誤って転落し、頭部を受傷した。 (10女、軽症)
	すべり台 54人 (9.0%)	公園内すべり台のガード外側にぶら下がっていたところ、誤って転落し、腰・背中を打撲した。(7男、軽症)
	木・草 43人 (7.2%)	公園内において木登りをして、約5mの高さにある枝にぶら下がって遊んでいたところ、ぶら下がっていた木の枝が折れ、地面へ墜落した。(10男、中等症)
衝突 236人	非該当 55人 (23.3%)	小学校屋上で遊んでいたところ、他の児童の頭と左上まぶたがあたり、受傷した。(9男、軽症)
	遊具 50人 (21.2%)	公園でぶらんこ衝突し、顔面を打撲、受傷した。(10女、軽症)
	ガラス片 15人 (6.4%)	小学校の1階玄関で4年生の児童が、誤ってガラス戸に衝突し、左まぶたと左肘、右腕を切るけがをした。(9男、中等症)
	家具 13人 (5.5%)	学校内で走った際に、ロッカーに衝突してひたいを受傷した。 (12男、軽症)
	柱・電柱 10人 (4.2%)	休み時間中に、友人に押されたはずみで後頭部を金属製の柱にぶつけ打撲した。(11男、軽症)
	壁・塀 10人 (4.2%)	学校内の廊下を走っている時に友達と衝突し転倒、壁に左側頭部をぶつけた。(11男、軽症)
挟まれ 161人	自転車 33人 (20.5%)	公園内で、子供同士で、自転車に2人乗りをしていて、自転車の後輪に左かかどが巻きこまれ、受傷した。(10女、軽症)

挟まれ 161人	手動ドア 30人 (18.6%)	店舗の入口のガラス扉と柱の間に指を挟み受傷した。(6男、軽症)
	家具 10人 (6.2%)	自宅の机に向い勉強中に、椅子と机の間に指を挟んで受傷した。 (7女、軽症)
	自動車のドア 6人 (3.7%)	7歳の女兒が、ワゴン車のスライドドアに頭部を挟んだ。 (7女、軽症)
	鉄道車両のドア 6人 (3.7%)	電車内において車両連結部の扉に指を挟まれ受傷した。 (8女、軽症)

(2) 運動による事故 360 (人)

受傷形態	関連器物	事故概要
転倒 147人	非該当 115人 (78.2%)	サッカーの試合中に誤って転倒し、骨折した。 (9男、軽症)
		小学校グラウンドで野球の練習中に誤って転倒し、受傷した。 (9男、軽症)
衝突 77人	非該当 50人 (64.9%)	体育館内で体育の授業中、バスケットのドリブルをしていた生徒同士が衝突し、頭部等を受傷した。(11男、軽症)
		野球の練習中、フライを追いかけてキャッチャー(大人)と衝突し、顔面を受傷した。(9男、軽症)
飛来物・落下物 39人	ボール等 33人 (84.6%)	グラウンドで野球の練習中、打球のフライを取ろうとして右眼に軟式のボールが当たり、受傷した。(10男、軽症)
		サッカー練習中にボールが右手にあたり、受傷。(12男、軽症)
墜落・転落 18人	運動器具 3人 (16.7%)	体操部の朝の練習中、段違い平行棒で高さ1.5mの位置から落下し、腰部を受傷した。(12女、軽症)

(3) 水による事故 7 (人)

受傷形態	関連器物	事故概要
遊泳中の溺水 5人	非該当 5人 (100.0%)	プールで遊んでいたところ、急に沈み出したため、一緒に来ていた母親が引き上げた。(6男、中等症)
家庭内の溺水	1人、不慮の溺水	1人

3 重症・重篤、死亡事例

(1) 一般負傷

一般負傷の総数9,682人のうち、重症・重篤、死亡数は61人(0.62%)となっている。内訳は、重症が45人、重篤が15人、死亡が1人となっている。以下に内容を記す。

なお、()内の%は、総数を母数として出している割合である。

受傷形態	関連器物	事故概要
墜落・転落 30人 (0.31%)	窓・サッシ 6人 (0.06%)	自宅マンション1階中庭部分で友人と遊んでいたところ、あかりとりのガラス部分を突き破り、地下1階約8m下の駐車場へ転落、受傷した。(10男、重篤)
	非該当 5人 (0.05%)	自宅4階マンションの窓から、隣のマンション空地部分に落ちた。(4男、重症)
	ベランダ 4人 (0.04%)	アパート2階ベランダ約4mから、アパート敷地砂利の上に転落し、頭部を受傷した。(10女、重症)
転倒 8人 (0.08%)	非該当 4人 (0.04%)	プールのサウナにて転倒し、受傷した。(6女、重症)
異物・誤飲 5人 (0.05%)	その他の固形、 液体食品 3人 (0.03%)	2歳の男の子がゼリーを食べていて喉に詰まらせた。 (2男、重篤)
		バスターミナル歩道上のベンチに親子で座りバームクーヘンを食べていたところ、顔が真っ青になってぐったりした。 (6女、重篤)
		マンション2階居室内においてピーナッツを食べながら遊んでいた。急に駆け込んできて、声を出せない様子で意識がなくなったもの。(1男、重症)
	ビー玉 1人 (0.01%)	誤って直径1.5センチのビー玉を飲み込んでしまった。 (5女、重篤)
	殺虫剤 1人 (0.01%)	8ヶ月の男の子が蚊取りマットを誤飲した可能性があるため救急要請した。(0男、重症)
熱傷 4人 (0.04%)	ヤカン 1人 (0.01%)	自宅で子供を椅子に座らせ、ミルクを作るため沸騰した熱湯約1リットルをカップに入れ置いていたところ、子供がカップを倒し、顔、首、胸、腹にやけどを負った。 (1男、重症)
	ポット、浴槽、薬剤等によるものも、各1人	
窒息 4人 (0.04%)	窓・サッシ 1人 (0.01%)	自宅居室内で遊んでいた息子が、ブラインドの紐が絡まりぐったりしていたので救急要請した。(1男、重症)
	浴槽、アメ玉類、非該当も、各1人	

その他 4人 (0.04%)	非該当 4人 (0.04%)	午前7時頃、母乳とおむつを換えるため、隣に寝ている子供をみると、口に蜘蛛の巣状態で泡が付着し、身体が冷たくなっていた。(0男、死亡)
薬物中毒 2人、創傷(その他) 2人、挟まれ 1人、ガス中毒 1人		

(2) 水による事故

水による事故の総数41人のうち、重症・重篤数は9人(21.96%)となっている。内訳は、重症が3人、重篤が6人となっている。以下に内容を記す。

なお、()内の%は、総数を母数として出している割合である。

受傷形態	関連器物	事故概要
家庭内の溺水 6人 (14.64%)	浴槽 4人 (9.76%)	娘の入浴が長いので、様子を見に行ったところ、浴槽内で仰向けの状態のまま沈んでいるのを発見した。(10女、重篤)
		自宅浴室で子供3人に水遊びをさせていた。その場を離れたら、泣き叫ぶ声が聞こえ見に行くと、子供が仰向けに浮いていたため、慌てて引き上げ救急要請した。(1男、重篤)
		父親が、自宅風呂場浴槽内で浮いている娘を発見し、心肺停止状態のため救急要請したもの。(2女、重篤)
	清掃用具 1人 (2.44%)	共同住宅9階ベランダでエアコン室外機からの排水をバケツに溜めていた。そこに頭部を突っ込んで意識を失っている子供を父親が発見し、母親が救急要請した。(0男、重症)
非該当 1人 (2.44%)		
不慮の溺水 1人 (2.44%)	非該当 1人 (2.44%)	1歳の子供が庭に池に落ちて溺れた。(1男、重篤)
遊泳中の溺水 1人 (2.44%)	非該当 1人 (2.44%)	流れるプールにおいて、うつ伏せで浮かんでいる子供をプールの監視員が発見し、医師等と協力して心肺蘇生を行った。 (4女、重篤)
その他 1人 (2.44%)	浴槽 1人 (2.44%)	乳幼児が、浴槽内で溺れていた。(0女、重症)

